自己点検・評価報告書

（2020年度）

2021年6月2日

医療創生大学 自己評価委員会

本学では、「自己点検・評価に関する規程」を定め、毎年、自己点検・評価を実施することとしています。全学教育委員会を責任主体、本委員会を実施主体として、内部質保証体制に基づき、2020年度の自己点検・評価を行いましたので、以下のとおり報告します。

１．医療創生大学内部質保証体制図 P. 1

２．各部局の自己点検・評価 P. 2

・薬学部 P. 2

・看護学部 P. 4

・健康医療科学部 P. 6

・心理学部 P. 8

・教養学部 P. 10

・理工学（生命理工学）研究科 P. 12

・人文学研究科 P. 14

・教務委員会 P. 16

・学生生活委員会 P. 17

・入試委員会 P. 18

・FDSD委員会 P. 19

・事務局企画課 P. 20

・事務局教務学生課 P. 23

・事務局総務課 P. 26

３．大学基準協会の定める「大学基準」による自己点検・評価 P. 28

・薬学部 P. 28

・看護学部 P. 35

・健康医療科学部 P. 42

・心理学部 P. 49

・教養学部 P. 56

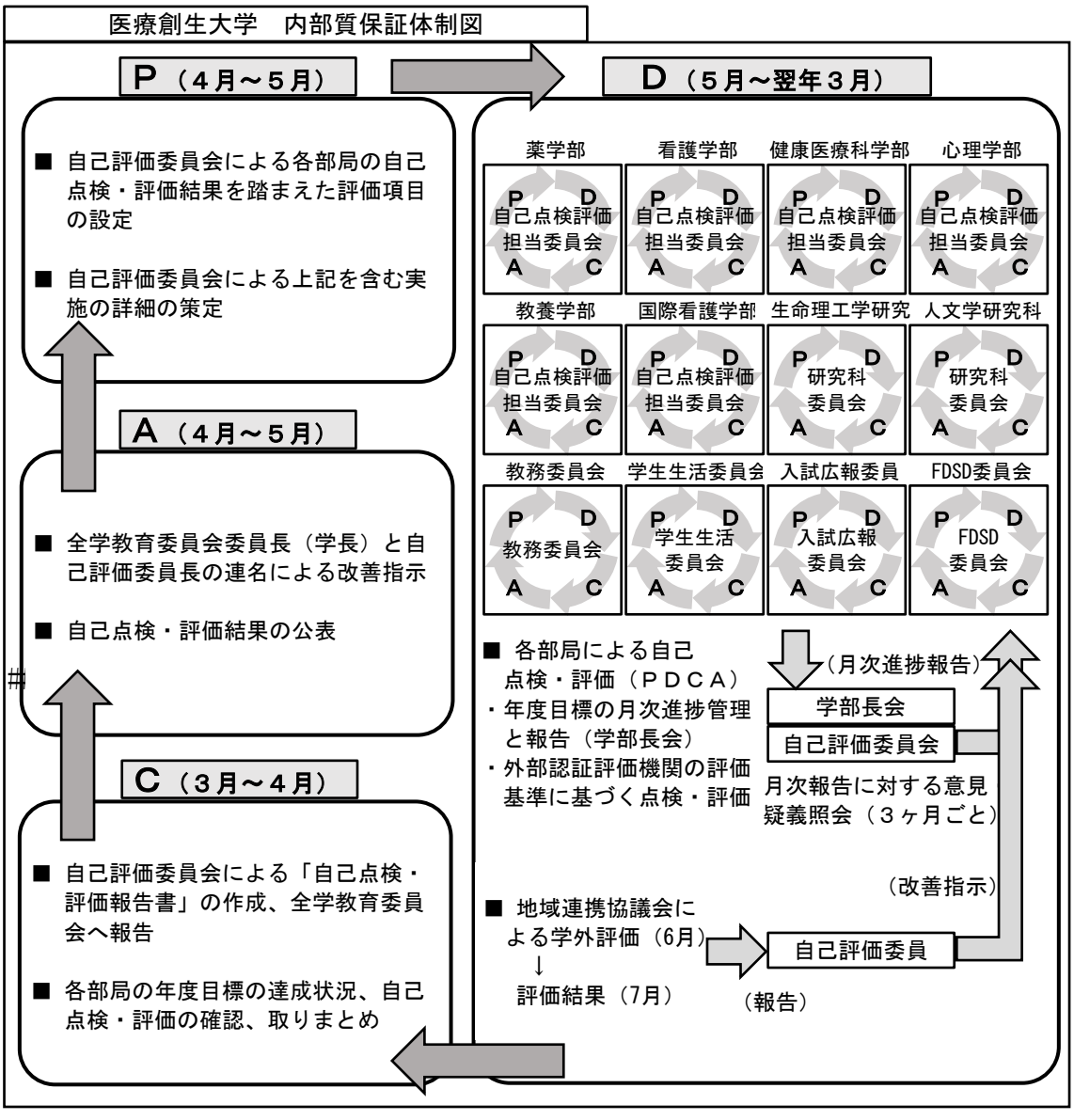
・生命理工学研究科 P. 63

・人文学研究科 P. 70

４．改善課題 P. 77

１．医療創生大学内部質保証体制図

P	自己点検・評価項目及び実施の詳細の策定 （規程第2条、3条）
D	各部局の教育活動（PDCA）の確認・把握、学外評価に基づく各部局への改善指示
C	各部局の自己点検・評価結果の確認、検証、及び自己点検・評価報告書の作成 （規程第5条、6条）
A	検証結果に基づく全学教育委員長と自己評価委員長の連名による各部局への改善指示、及び自己点検・評価結果の公表（規程第8条）



2020年度自己点検チェックリスト　　【薬学部】

<table>
<tr><th colspan="3">年度目標</th><th colspan="2">自己点検・評価</th></tr>
<tr><td>数値目標</td><td>前年度数値</td><td>各種対策</td><td>数値目標結果</td><td>各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">国家試験合格率</td><td rowspan="2">・低学年次における基礎力向上
・教員による国試対策夏期ならびに春期講習会
・予備校講師による物理系科目の重点補講ならびにオンライン補講（国試対策特別補講）
・国試対策模擬試験によるモチベーション向上
・国試対策委員会による頻繁の国試対策会議</td><td>国家試験合格率</td><td rowspan="2">［取り組み状況］
・2021年3月24日に国試合格者の発表があり、2020年度目標数値の新卒100%を達成できた。また、既卒を含めての合格率は95.9%であり、全国1位となった。全国１位は本学部としては３度目である。
・国試対策の年度目標はすべて遂行した。

［課題・改善点、改善計画］
・卒業留年生ならびに国試浪人の対策を検討する。</td></tr>
<tr><td>100.0%
（新卒）</td><td>95.0%
（新卒）</td><td>100.0%
（新卒）
（43/43）</td></tr>
<tr><td colspan="2">就職率</td><td rowspan="2">・市内病院・薬局への薬学ブレチンの配布
・薬学就職委員会による履歴書や小論文の添削、個別の面接練習
・4回の就職ガイダンスおよび就職支援講の開催</td><td>就職率</td><td rowspan="2">［取り組み状況］
・本年度も就職率100%を達成することができた。
・対策の年度目標のうち、市内病院･薬局への薬学ブレチンの配布は実施した。
・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、４回の就職ガイダンスを２回に圧縮して、就職ガイダンスおよび就職支援講座を行った。こうした対策はこれまで５年生のみであったが、今年度は一部を４年生に向けても実施した。</td></tr>
<tr><td>100.0%</td><td>100.0%
（国試浪人2名を除く）</td><td>100%
（43/43）</td></tr>
<tr><td colspan="2">修業年限進級率</td><td rowspan="4">・基礎学力の低い入学生に2・3・4年生10名がマンツーマンで授業内容を指導
・期末試験前に、既に不合格科目のある学生を呼び出して学年主任とチューター教員とで学習指導面談を行う。
・頻回のチューター面談
・在籍状況（留年・休学など）の分析
・留年者ガイダンスならびに6年生定期的面談
・留年生への指導を徹底するよう教授会における学部長からの指示</td><td>修業年限進級率</td><td rowspan="4">［取り組み状況］
・期末定期試験において再試験対象者になった学生に対し、教員が従来以上に手厚い指導を行い、留年率抑制に向けて努力したおかげで留年率は前年度を上回ることができた。
・１～５年生全員および６年生卒延生を対象に教員ならびに国試対策専門講師による春期講習会を3月中旬に実施した。
・基礎学力の低い１年生を対象とした本学独自の個別指導型教育「クラムスクール」を実施して期待以上の良好な結果が得られ、その成果を今年度の日本薬学会（2021年3月）にて発表した。

［課題・改善点、改善計画］
・修業年限進級率が数値目標に達しなかったが、低学年次における基礎学力増強対策が十分ではなかったものと反省している。
・特に低学年の学生に対して、基礎学力向上に向けたチューター面談、学年主任面談の頻度を増やし、きめ細やかな指導を行う。</td></tr>
<tr><td>31.6%
（31/97）</td><td>41.0%
（34/83）</td><td>21.6%
（21/97）
（編入生除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">留年率</td><td>留年率</td></tr>
<tr><td>0.0%</td><td>10.0%
（1～5年）</td><td>9.6%
（1～5年）
（30/312）</td></tr>
</table>

2020年度自己点検チェックリスト　　【薬学部】

<table>
<tr><th colspan="3">年度目標</th><th colspan="2">自己点検・評価</th></tr>
<tr><td>数値目標</td><td>前年度数値</td><td>各種対策</td><td>数値目標結果</td><td>各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">離籍率</td><td rowspan="2">・頻回のチューター面談
・在籍状況（留年・休学・退学など）の分析
・留年者を実習のスチューデントアシスタント（SA）として採用
・経済的支援（奨学金の紹介）
・ミスマッチ学生に対して、薬剤師の職業としての魅力ならびに社会的意義を伝える
・低学年時における自校教育の強化</td><td>離籍率</td><td rowspan="2">［取り組み状況］
・離籍率は、ほぼ昨年と同じであった。

［課題・改善点、改善計画］
・退学理由としては、主に体調不良、経済的理由、他大学へ進学、学業不振であった。
・新型コロナ感染拡大により経済的に困窮する学生に給付型奨学金を積極的に紹介する。</td></tr>
<tr><td>0.0%
(0/388)</td><td>4.0%
(16/404)</td><td>4.6%
(1～6年)
(18/388)</td></tr>
<tr><td colspan="2">入学定員充足率</td><td rowspan="2">・薬学教育評価機構による6年制薬学教育の適合認定に伴う新聞記事・ホームページへの掲載
・薬剤師主人公ドラマ「アンサング・シンデレラ」中のコマーシャル放映（山形・福島・宮城地区）。
・本薬学部主催の2020年度日本薬学会東北支部大会（10月）への高校生の参加案内
・高大連携事業（一日総合大学）、高校出前講座における広報</td><td>入学定員充足率</td><td rowspan="2">［取り組み状況］
・総長先生にご支援頂いたテレビ広告およびスカラーシップ復活の効果もあり、2021年度入学者数は前年度を13.4%上回ることができた。

［課題・改善点、改善計画］
・薬学部受験生増に向けて、今年度からいわき市内の中学生を対象にした広報のための講習会を事務局と連携して開催する。</td></tr>
<tr><td>100.0%</td><td>54.4%
(2020入学)</td><td>67.8%
(2021年度入学)

＜90名定員＞</td></tr>
</table>

2020年度自己点検チェックリスト　　【看護学部】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
国家試験合格率 100.0%	―	①1年生は年1回、2年生・3年生は年2回、4年生は5回程度の国家試験業者模試を実施する。その結果を教員間で共有し学生指導に役立てる。 ②3年生・4年生は模試結果の標準偏差40未満の学生とその父兄との3者面談を実施し、父兄にも現状を理解してもらい協力を得る。	国家試験合格率 看護師 88.8% 保健師 93.3%	①4年生は業者模試 7回、学内模試 1回の計 8回を実施した。2・3年生は業者模試を 2回、1年生は 1回実施した。また4年生に対し、8～翌1月に教員による強化講義を実施した。2年生に対しては、3月に業者による強化講義を2日間、3年生には4日間実施した。 ②4年生には、父兄への業者模試結果の郵送や成績不振者には三者面談を行った。結果、9月頃には72名中1/4の学生が不合格圏内であったが、最終的に64名の合格者となった（8名不合格）。看護学部全教員が一丸となって、4年生の国試対策に取り組むことができた。今後は、業者模試は全国平均との比較を検討するため、業者選定や時期、年間回数などを検討する必要がある。教員による強化講義は事前準備が必要なため、年度当初に計画しておく。
就職率 100.0%	―	①2・3年生は年1回、円滑な就職活動が行えるよう就職関連講座を企画している。また、就職先の選択に役立てる為、学内における就職説明会を企画する。4年生には面接や小論文の指導など就職活動の実際に役立つ支援や講座を実施してキャリタスUの登録指導も行う。 ②4年生担当の新任教員に対し、円滑な指導が行えるよう就活指導マニュアルを作成する。また、キャリタスUの活用により情報の共有化を図る。	就職率 91.4%	①9月に就職説明会を開催し、26施設の参加があった。学生の参加状況は、2年生17名、3年生50名、4年生数名の参加だった。キャリア支援講座として、低学年には「実習場で望まれる基本的な姿勢」の研修会、3年生に対しては、就職説明会に参加する目的や留意点についての研修会が行われた。また、2月には3年生を対象とし「履歴書や小論文の書き方」についてキャリア支援講座を開催した。4年生に対しては、パンフレットの掲示や情報誌の展示などによる情報提供をした。 ②新任教員の為の学生支援マニュアルを作成し、学生の指導体制の統一化を図った。今回の参加学生の状況から、就職や進学に関する情報提供を行い、インターンシップに活用できる有効な環境作りをしていく。
修業年限進級率 87.0%	―	１．授業方法の改善 ①各授業回における学習目標の提示依頼 毎回の授業目標を提示し、学習内容と到達レベルの理解を促すよう、科目担当者に依頼する。 ②C-learningの導入に合わせた小テストの推進 科目内で定期的な小テスト実施し、瞬時にその結果を集計しグラフ化するなどのLMSを導入する。その結果を講義内で都度、学生に開示し、自身の位置づけを自覚させ学習意欲を高める。科目担当者に依頼する。 ③再試験等の実施依頼 成績不振者には、再試験やレポートを課すことにより、学習機会を設け単位未修得科目を減らすよう各科目責任者に依頼する。 ２．留年危機のある学生の早期発見・早期対応 ①欠席状況に合わせた面談依頼 授業回数が1/6程度進行した頃に出席状況を把握し、欠席回数の多い学生にはチューター面談をしてもらうよう科目責任者に依頼する。 ②GPA面談の実施依頼、学生生活委員会に依頼する。	修業年限進級率 93.0%	1.①毎回の授業で、授業目標と学習内容を提示するよう科目担当者に依頼した。ほとんどの教員が実施していた。 ②後期からC-Learningの導入となった。操作に不慣れな状況により出席管理のみの活用となり、小テスト等の活用には至らなかった。 ③再試験の実施を科目担当教員に依頼し、単位未修得科目を減らすよう周知した。4年生、3年生は全員単位修得、2年生は4名の単位未修得者があったが、留年者は1名であった。1年生は8名の単位未修得者がおり、2名が留年者となった。その2名は2年連続の留年であり、進路変更をした。
留年率 0.0%	6.4%		留年率 2.2%	2.①欠席状況について、早期から科目担当者とチューターとの連携を図り面談、早期対応をした。体調不良等による欠席だったため、受診および休学となった。 ②年度末にGPA面談の機会があったが対象者はいなかった。2020年度は、コロナ感染の影響により4月から授業開始日の延期や遠隔授業となった。しかし、その中でも早期から演習科目では対面授業を取り入れ、学習効果が下がらないようにした。今後は、感染防止に努めながらC-Learningの活用を推進していく。

2020年度自己点検チェックリスト　　【看護学部】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
離籍率		１．離籍危機のある学生の早期発見・早期対応 ①欠席状況に合わせた面談 授業回数が1/6程度進行した頃に出席状況を把握し、欠席回数の多い学生にはチューター面談をしてもらえるよう科目責任者に依頼する。 ②学生面談の実施 学修、学生生活に関する個別相談、アドバイスを定期的に行う。	離籍率	①欠席状況について、早期から科目担当者とチューターとの連携を図り面談、早期対応をした。体調不良等による欠席だったため、受診および休学となった。 ②前期、後期の初めと終わりに各チューターによる学生面談を実施し、学修や学生生活に関する情報収集、助言を実施した。また、それ以外にも学生からの要望に合わせ、適宜面談を実施した。コロナ感染に伴う経済的な支援など、学生生活に関する問題も複雑でかつ多様であるため、引き続き手厚い支援を行っていく。
2.5%	5.5%		2.8%	
入学定員充足率		①オープンキャンパスやホームページ等に掲載する看護学部をPRするデジタルコンテンツを作成する。 ②上記デジタルコンテンツを出前講座等でも紹介する。 ③オープンキャンパス参加リピート者を増やすために、各回、異なる内容で実施する。	入学定員充足率	①2020年度のオープンキャンパスは、6月と9月がweb上開催、8月が対面開催となった。動画作成や大学案内の作成に関わり、大学の広報活動に参画した。 ②出張講義、1日総合大学等への参画は9件の依頼があり、すべて対応し実施することが出来た。その際、作成した動画等を活用して紹介をした。 ③対面開催かweb上開催となるのか、その時どきで判断せざるを得ない状況だったため、準備の時間が十分に取れなかった。しかし、各回異なる内容で実施し本学に対する興味・関心を高め、より理解を深めてもらう活動ができた。今後も継続していく。
100.0%	125.0%		95.0%	

2020年度自己点検チェックリスト　　【健康医療科学部】

<table>
<tr><th colspan="3">年度目標</th><th colspan="2">自己点検・評価</th></tr>
<tr><td>数値目標</td><td>前年度数値</td><td>各種対策</td><td>数値目標結果</td><td>各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">国家試験合格率</td><td rowspan="2">1. 各学年における学生の能力を測定する
a. 前期、後期試験，　b. 解剖、生理学、運動学（医歯薬）

2. グループ学習を奨励する
a. 学生の学習スタイルを特定する
b. Aの結果をもとにグループを作成する
c. グループ学習の効果を評価する

3. ４年生向けの国家試験対策プログラム
a. 模擬試験（IPEC など）</td><td>国家試験合格率</td><td rowspan="2">取り組み状況
①三科目模試（医歯薬出版：解剖学、生理学、運動学）を年度末に実施している。
②専門基礎三科目を中心に、学習支援を実施している。

次年度への課題、改善点、改善計画
①2020年度の経験を活かし、模試受験に対する、心構え、勉強方法、課題の与え方、フィードバック方法を検討する必要がある。</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">就職率</td><td rowspan="2">葵会グループの施設紹介や実習施設の紹介を適宜行い、就職意識の醸成を図る。</td><td>就職率</td><td rowspan="2">特になし</td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">修業年限進級率</td><td rowspan="4">①　教育に適切な教育モデルを使用する
1. 東北大学とのコラボレーション：a. 東北大学の教員を本学部FDに招待，b. 本学部教員の東北大学新任教員プログラムへの参加
2. 教育研究：a. 教育モデルの有効性の検証，b. 学生に対する学習スタイルの調査，c. 教育系の学会での発表，d. 教育系の学術誌への投稿
3. 教員の評価：a. ピアレビュー，b. 学生からのレビュー

②　教育に適切な技術を使用する
1. e-Learning / MANAB@，C-learning：a. 教員に対するMANAB@のレクチャー，b. 教員に対するweb会議system（ZOOM; MSTeams)のレクチャー
2. オンデマンド学習：a. 講義を収録しクラウドにアップロードする
3. インタラクティブな学習技術：a. Mentimeter，b. iBooks

③　新しい臨床教育モデルを開発する
1. 現場で onSite：a. シミュレーション教育，b. 学内PT/OTクリニック
2. オフサイト offSite：a. 実習指導者のトレーニングプログラム（修了書を与える）　3. 地域の病院のスタッフ向けに学会/ワークショップの開催</td><td>修業年限進級率</td><td rowspan="4">取り組み状況
①習熟度の不十分な学生に、科目担当、チューター、学年主任、学科主任、学部長などが面談を実施し、今後の学習方法について指導している。
②出席率の低い学生には、科目担当、チューターで対応している。場合によっては保護者面談も実施し、学科構成員で共有している。
③主要科目である、解剖学と生理学については前年度の前期成績不良の学生に対して、時間外で補習を行っている（週１回）。

次年度への課題、改善点、改善計画
①チューターと担任の役割が分担を明確にする。
②成績不良学生や出席率の低い学生への対応は、継続する。</td></tr>
<tr><td>OT:100.0%
PT:100.0%</td><td>OT:80.0%
PT:95.0%</td><td>OT：96.6%
PT：96.1%</td></tr>
<tr><td colspan="2">留年率</td><td>留年率</td></tr>
<tr><td>OT:0.0%
PT:0.0%</td><td>OT:20.0%
PT: 3.3%</td><td>OT：1.7%
PT：1.6%</td></tr>
</table>

2020年度自己点検チェックリスト　　【健康医療科学部】

<table>
<tr><th colspan="3">年度目標</th><th colspan="2">自己点検・評価</th></tr>
<tr><td>数値目標</td><td>前年度数値</td><td>各種対策</td><td>数値目標結果</td><td>各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">離籍率</td><td rowspan="2">・学科主任、学年主任が中心となり、各学生の生活状況を把握するとともに、学習支援が必要な学生を抽出し、専任教員が解剖学、生理学、運動学の３科目について学習支援を実施する。

・留年対策を進めつつ、学年主任面談やチューター面談を適宜実施し、学生の内省支援を実施する。

・学生の学習意欲が向上するよう、専任教員の臨床経験を授業で紹介する。</td><td>離籍率</td><td rowspan="2">取り組み状況
①退学を検討している学生については学科会議において教員間での情報を共有している。
②授業（専門科目）において、作業療法及び理学療法の魅力を伝えながら授業を進めている。

次年度への課題、改善点、改善計画
①離籍率の減少に向けて、学科内の情報共有と支援を継続する。</td></tr>
<tr><td>OT:0.0%
PT:0.0%</td><td>OT:0.0%
PT:1.7%</td><td>OT：1.7%
PT：2.3%</td></tr>
<tr><td colspan="2">入学定員充足率</td><td rowspan="2">1. Messaging: What is OT・PT? Why ISU?
2. Branding: 医療創生大学　健康医療科学部
3. Targeting: 高校先生(リスト), 高校学生(リスト), 塾(リスト), 親 (オープンキャンパス)
4. Method:a. ホームページ, b. オープンキャンパス, c. 訪問, d. メディア: 新聞、e. SNS e.g. Facebook (学校の活動 e.g. 入学式, オープンキャンパス) youtube channel (ビデオ)</td><td>入学定員充足率</td><td rowspan="2">取り組み状況
①OCで入試広報委員を中心に各学科の紹介を実施している。
②Facebook、Twitter、Instagram、YouTubeを使用した学科PRに取り組んでいる。
③作業療法、理学療法のメッセージングについて、検討をしている。

次年度への課題、改善点、改善計画
①高校訪問、SNSなど利用して作業療法、理学療法の魅力を宣伝する。</td></tr>
<tr><td>OT:100.0%
PT:100.0%</td><td>OT:95.0%
PT:115.0%</td><td>OT：55.0%
PT：126.7%</td></tr>
</table>

2020年度自己点検チェックリスト　　【心理学部】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
進学・資格取得率		1.心理学検定などの心理学関連資格について、今後学部内で検討し、希望者が合格、または取得できるよう支援する。 2.臨床心理士・公認心理師の受験資格取得を目指して大学院への進学を希望する者に対しては、受験のサポートを行う。	進学・資格取得率	・取り組み状況について 心理学検定や心理学関係資格取得の情報を学生に提供するとともに、教員有志による国家試験勉強会を開催し、動機づけを醸成した。 ・次年度への課題・改善点・改善計画について 資格取得だけでなく大学院進学希望者への受験サポートをこれまでも地道に実施してきたが、大学院進学後の研究や学習についての具体的な説明や理解を深められる取り組みを検討していく。国家試験勉強会の情報提供を2年生のみならず1年生にも行い、参加を呼びかける。
－	－		－	
就職率		1.「フレッシャーズ・セミナー」におけるキャリア意識の形成。 2.キャリア意識についての縦断的アンケート調査を実施。その結果を踏まえ、個別サポートを検討・支援。	就職率	・取り組み状況について 前後期で開講の必修科目「フレッシャーズ・セミナー」において1年後期の段階からキャリア意識の醸成を目的としたプログラムを実施。職業レディネステストで学生個々の職業適性結果を提供し意識を深めた。加えてセルフグロースシートを用いた1年間の自己の成長の振り返りを行い、卒業時までの4年間の学修目標の明確化と、今後1年間の目標設定を通じたキャリアに関する目標の具体化を明確化する作業を実施した。 ・次年度への課題・改善点・改善計画について キャリア意識の積極的な醸成を促進するため個別サポートの実施を検討していく。
－	－		－	
修業年限進級率		1.学生生活を送るなかで学生が経験する心理的な課題について、チューターによる丁寧なサポートを定期的に実施。 2.入学時の入試形態、出身校、入学後の出席率、GPA等のデータを学部独自で集積および分析し、リスク要因を特定し、ハイリスクの学生に対して早期にテューターによる個別支援を実施。	修業年限進級率	・取り組み状況について 必修科目「フレッシャーズセミナー」に関わるチューターは、授業後に情報共有の場を持った。リスクの高さや違和感を感じた学生の情報を共有し、学年主任連絡会で集約し、その内容を学科教員全体で共有した。また、このような学生に対しては、定期のチューター面談とは別に、適宜、学生面談を行い、学生支援を行った。 さらに、入学時の学生個々の情報から休学や退学に結び付く課題を抱えやすいハイリスク学生の早期発見、支援の取り組みについても検討した。具体的には、年度目標に示したように、学生の入試形態や出身校、入学後の出席率、GPAなどのデータ集積を試みている。また、これらの情報共有の具体的な時期や方法の検討を進めている。 ・次年度への課題・改善点・改善計画について 上述のように、学生個々の情報を入学時の段階で入手し、入学直後からハイリスク学生の支援計画のような具体的な対策を想定しておくことが必要である。とくに演習形態の「フレッシャーズセミナー」や「心理学基礎演習」では、他者とのかかわりが不得手な学生にはハードルが高いため、(休学や退学を意識するといった)ハイリスクな選択をするトリガーになりやすい。このため、このような「困り感」を抱える学生への支援体制を具体化していく。
－	－		100%	
留年率			留年率	
0.0%	－		0.0%	

2020年度自己点検チェックリスト　　【心理学部】

<table>
<tr><th colspan="3">年度目標</th><th colspan="2">自己点検・評価</th></tr>
<tr><td>数値目標</td><td>前年度数値</td><td>各種対策</td><td>数値目標結果</td><td>各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">離籍率</td><td rowspan="2">同上</td><td>離籍率</td><td rowspan="2">同上</td></tr>
<tr><td>0.0%</td><td>－</td><td>5.8%</td></tr>
<tr><td colspan="2">入学定員充足率</td><td rowspan="2">1.学部教員による高校訪問を実施。
2.SNSなどの情報発信ツールを活用し、学部の情報発信を行う。</td><td>入学定員充足率</td><td rowspan="2">・取り組み状況について
　SNSの情報発信や学部教員紹介動画、教員によるミニエッセイなども発信してきたが閲覧者は主に学内学生であった。大学外部からは大学名称が「医療」に特化した学部構成であるという理解が一般化しているため、心理学部の存在感が薄くなったと推測される。
・次年度への課題・改善点・改善計画について
　教員による高校訪問を実施予定であるが、新型コロナウィルスの影響で今年度も学部教員が直接各高校に訪問することは難しいことが予想される。そのため、ネット媒体やポスター・名刺などの配布できる媒体でのアピール方法などを検討する必要がある。また、人文系学部の学生の輩出は一般企業や就労において必要なマンパワーであるため、入学前・卒業後の関係機関への魅力あるアピールを検討していく。</td></tr>
<tr><td>100.0%</td><td>56.7%</td><td>58.3%</td></tr>
</table>

2020年度自己点検チェックリスト　　【教養学部】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
公務員/教員採用		・年間を通じ、毎週水曜日4時限、全学年の教員志望学生全員を集め、授業運営の方法等を指導 ・教員採用試験直前の4年生を対象とした集中対策講座を実施 ・公務員志望者に対して、志望動機等の書き方に関する個別指導 ・一次試験合格者に対する模擬面接の実施 ・manab@のドリル機能を用いた過去問対策	公務員/教員採用	【取り組み状況】 左記の各種対策をすべて実施した 【次年度への課題・改善点、改善計画等】 教職課程８名中７名（中学校英語科 3名、小学校 4名）が採用試験を受験予定であり、前年度よりもいっそう採用試験問題に特化し、C-Learningで問題データを定期的に送信し、対面では試験本番さながらの模擬試験を数多くこなす計画で進める。 公務員志望者に対しては、昨年度同様の対策を実施する。とくに、昨年度の反省を踏まえ、面接対策に、より時間を割いて実施していく予定である。
4名/4名	2名/2名		100%	
就職率		・学生生活の充実に向けた指導の強化（全教員） ・基礎学力、ゼミ・卒研内容説明の言語化指導 ・キャリア授業における品質の維持 ・就職指導・相談の遠隔対応、大学Web,manab@を通じたアクセス向上	就職率	【取り組み状況】 地方においても就活のオンライン化が進展し、本学キャリア就職指導においても、就職相談、模擬面接、グループディスカッション練習などをオンラインで実施し、環境変化に対応した。学内合同企業説明会もオンラインで実施し、地元企業30社の参加を得た。各ゼミでエントリーシート作成や面接指導を実施した。 【次年度への課題・改善点、改善計画等】 修業年限からみて次年度の4年生が最後の学生となることが不利にならないよう支援する必要がある。関連専任教員が少なくなり、心細さを感じることを防ぎ、面接等で学内事情を訊かれることに対しても上手に説明できるよう指導したい。
100.0%	100.0%		93.8%	
修業年限進級率		・前期・後期ガイダンス及びその後の第1回ゼミにおける、丁寧な履修指導の実施 ・チューターによる、授業の出席状況の把握及び出席状況の芳しくない学生に対する面談の実施 ・課題未提出等、履修状況に問題のある学生への、科目担当者とチューターとの連携した対応	修業年限進級率	【取り組み状況】 各チューターが担当学生の授業出席状況を把握し、出席状況の芳しくない学生への面談を行った。主任連絡会においては、定期的に、留年や退学のリスクが高いと思われる学生について情報共有を行い、対策を検討した。取得単位100未満の学生についてチューターが履修計画表を作成し、それをもとに令和３年度の開講科目の調整を行った。 【次年度への課題・改善点】 取得単位数に問題がある学生に絞った対策を取るべきことが挙げられる。就職活動や卒業研究との兼ね合いという点を踏まえ、面談回数を多くし、より具体的な履修計画を作成し、実行させ、状況をチェックし指導する必要がある。 【改善計画】 ガイダンス前後の時点で全学生に単位数確認シートを提出させ、チューターがこれを確認する、という方策をとりたい。取得単位数が少ない学生については、履修計画と就職活動の予定とを併せた計画表を提出させる。チューターは定期的に学生の状況を把握し、計画表どおりに進行していない場合には指導を行う。
90.0%	87.5%		91.5%	
留年率			留年率	
3.0%	4.8%		2.4%	

2020年度自己点検チェックリスト　　【教養学部】

<table>
<tr><th colspan="3">年度目標</th><th colspan="2">自己点検・評価</th></tr>
<tr><td>数値目標</td><td>前年度数値</td><td>各種対策</td><td>数値目標結果</td><td>各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">離籍率</td><td rowspan="2">・出席状況の芳しくない学生に対する、メールや電話等による声かけや、面談の実施
・チューター、学年主任、学部長による段階的な面談の実施
・保護者との連携強化
・心理相談センター、保健管理センターとの連携
・事務局教務学生課との連携強化
・主任連絡会における情報共有・対策検討</td><td>離籍率</td><td rowspan="2">【取り組み状況】
左記の各種対策を実施したが、定期的なチューター面談の実施は不十分なものに留まった。
【次年度への課題・改善点、改善計画等】
基本的には上記と同じであるが、メンタルな問題が介在する場合には、保健管理センターや教務学生課との連携が必要となる前に、チューターによるきめ細かいケアが必要で、居心地の良い人間関係をチューター・学生間で築くことが肝要である。そのための具体的方策を主任連絡会等で検討していきたいが、まずは、定期的なチューター面談の実施を徹底したい。</td></tr>
<tr><td>3.0%</td><td>3.8%</td><td>1.8%</td></tr>
<tr><td colspan="2">入学定員充足率</td><td rowspan="2"></td><td>入学定員充足率</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr>
</table>

2020年度自己点検チェックリスト

【理工学（生命理工学）研究科】

<table>
<tr><th colspan="3">年度目標</th><th colspan="2">自己点検・評価</th></tr>
<tr><td>数値目標</td><td>前年度数値</td><td>各種対策</td><td>数値目標結果</td><td>各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画</td></tr>
<tr><td colspan="2">就職率</td><td rowspan="2">ほぼ全員が国家資格保有者であるため、特段の就職対策は実施していない。</td><td>就職率</td><td rowspan="2">国家資格保有者ではない大学院生が入学してきた場合、就職対策が必要と考える。理系大学院修了者の就職先は限られつつも、本人の希望を極力受け入れ、柔軟に対応する。</td></tr>
<tr><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr>
<tr><td colspan="2">修業年限進級率</td><td rowspan="2">社会人学生が多く、仕事や子育てとの兼ね合いもあり、休学制度を柔軟に運用して修業年限での修了を徹底する。また、博士課程学生については査読誌への論文掲載が必須なので、研究テーマを含め指導教員と十分なコミュニケーションをとり修業年限での学位取得を目指す。</td><td>修業年限進級率</td><td rowspan="2">入学者の背景（薬剤師、理学療法士、作業療法士等の資格を有する社会人）を考慮すると、業務と研究のバランスを取ることが非常に難しい側面がある。休学や修了延期が必要となるケースでは、指導教員との密なコミュニケーションのもと、研究テーマ等の工夫により修業年限での学位取得を目指す。</td></tr>
<tr><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr>
<tr><td colspan="2">留年率</td><td rowspan="2">博士課程では、査読制度のある学術誌への掲載が論文審査の基準となっているが、研究レベルを下げることがあってはならないと考えている。</td><td>留年率</td><td rowspan="4">学位を授与するには研究内容が一定の水準を満たす必要があるが、研究のクオリティと研究期間はほぼトレードオフの関係にあり、どのレベルの研究を目指すかによって留年率は大きく左右される。修業年限での進級と合わせ、無理のない研究テーマを設定しつつも研究レベルを下げないよう、指導教員が積極的に関与していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>0.0%</td><td>15.4%</td><td>0.0%</td></tr>
<tr><td colspan="2">離籍率</td><td rowspan="2">科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある指導を徹底する。</td><td>離籍率</td></tr>
<tr><td>0.0%</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr>
</table>

2020年度自己点検チェックリスト

【理工学（生命理工学）研究科】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
入学定員充足率		・研究科ウェブサイトの充実 ・介護・医療機関へのパンフレットの配布	入学定員充足率	本研究科は博士課程入学希望者が定員を超えており、この背景には6年制薬学部出身者が修士課程を経ずに博士課程に進学できることと、大卒社会人の場合、就業期間を修士課程の研究歴としてみなすことができるので直接博士課程に進学できることが挙げられる。 一方、修士課程は上記理由から薬剤師の希望者は少なく、理学／作業療法士についても同様である。したがって、特に修士課程入学者の充足を図るためには県南唯一の医療系大学院であることをアピールし、ウェブサイトやパンフレットを充実させる必要がある。
100.0%	85.7%		100.0%	

2020年度自己点検チェックリスト　　【人文学研究科】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
国家試験合格率		1.受験勉強の準備について合格した修了生から体験を聞きアドバイスを受けるため、模擬試験を実施し、結果を解説するといった資格試験対策講座を開催する。 2.定期的な自主勉強会に場所を提供するなどサポートする。	国家試験合格率	1.　9月5日(土)に資格試験対策講座を開催し、３名の受験予定者を対象に模擬試験を実施し、その後、回答の解説を行った。 2.　資格試験の受験を予定している修了生が心理相談センターの会議室を使って資格試験準備のための自主勉強会を２回行い、そこに大学院生も参加した。
100.0%	50.0%		50.0%	
就職率		1.実習先や、地域の施設・企業との交流を普段から持ち、就職関連の情報を得やすくし、求人情報などを該当大学院生に提供する。 2.在籍者がどのような臨床実践分野に関心があるかを把握し、適宜、見学などを紹介する。	就職率	1.　実習先や地域の対人支援専門機関等から届く求人情報を提供した。 2.　法務省関係の公務員を志望していた院生に対して、採用試験が不合格になった後、それ以外の就職について情報を提供し、就職支援をした結果、教育関係の会社に就職が決まった。
100.0%	100.0%		100.0%	
修業年限進級率		1.入学時からのメンター制度を活用し、学生生活における相談や学習面のサポートを行う。	修業年限進級率	1.　メンターや修論指導教員が中心となり、単位の取得状況を確認するとともに、専門職業人としての学修が確保できるよう個別の指導を繰り返し実施した。
100.0%	100.0%		100.0%	
留年率			留年率	
0.0%	0.0%		0.0%	

2020年度自己点検チェックリスト　　【人文学研究科】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
離籍率		同上	離籍率	
0.0%	0.0%		0.0%	
入学定員充足率		1.年に2回、大学院説明会を実施し、学部をはじめ、社会人経験者など入学希望者を開拓する。 2.学部のオープンキャンパスにおいても、進学希望者や資格取得、カウンセラー希望者に、個別面談を実施する。 3.心理学部の学生に対して説明会などを開き、在学中から資格取得や進学のための説明を丁寧に行う。	入学定員充足率	1.　8月の大学院説明会はオンラインで行い、2名の参加があった。12月の説明会は対面で行い、4名の参加があった。 2.　8月の大学のオープンキャンパスに訪れた高校生に対して、公認心理師資格取得を希望する場合は、心理学部卒業後本専攻で学修することで受験資格が取得できることを説明した。 3.　教養学部生、心理学部生に対して実施した資格取得説明会の中で、本専攻のカリキュラムは臨床心理士、公認心理師受験資格取得に対応していることを説明した。
50.0%	15.0%		15.0%	

2020年度自己点検チェックリスト　　【教務委員会】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
学力向上対策 国家試験合格率 離席率の低下 留年者数の低下		1) GPA制度の在り方検討 2) CAP制度の在り方検討 3) 成績評価の適正性の検証 4) カリキュラム編成の再確認 5) 全学共通教育科目の見直し 6) シラバスの書式、活用の検討 上記項目1)～6)について活用状況や問題点などを整理し、各学科で優先順位を設定の上、学力向上、離籍率の低下に向けた対策に取り組む。 事業計画である「EMへの準備（データ整備）」に基づき、現有のデータの確認と整理を行う。また、各学科で必要とするデータの収集と活用を検討する。		1) GPA制度の在り方検討 ・GPA活用の実質化のために、2021年度は履修登録の取り消し期間を延長し、チューターによる履修指導を十分に行うこととした。 ・全学的に進級(卒業)要件に取り入れることは現時点では困難である。次年度以降の状況により改めて検討する。 2) CAP制度の在り方検討 ・各学科の問題点を集約した。2021年度は現行通りとするが、看護学部のカリキュラム変更と他学科の完成年度を見据えて、審議続行とする。 3) 成績評価の適正性の検証 ・2020年度は具体的な検討は行わなかった。2021年度以降の課題とする。 4) カリキュラム編成の再確認 ・完成年度を迎えた学部は、学部単位で専門科目の定期的な見直しを行っている。2021年度以降は全学のCP,DPとの整合性の確認を検討する必要がある。 5) 全学共通教育科目の見直し ・完成年度前の学部があり、大きな見直しは困難である。次年度以降も全学部の完成年度を視野に入れた検討を進める必要がある。 6) シラバスの書式、活用の検討 ・シラバス記載項目の確認を行い、2021年度は新書式とした。次年度以降も随時改善を行う。 EMのための基礎データの収集を始めた。来年度以降もデータの収集と整理を継続し、各学科の要望を確認しながら活用につなげる。
各学部学科の設定目標数値達成の支援		学力と国家試験合格率の向上、離籍率と留年率の低下の対策に挙げた1)-6)に加え、各学科で必要と考える全学的な取り組みに対応する。		CAP制度の在り方に関して、看護学部と薬学部から履修登録単位数の上限変更が提案され、来年度の対応を検討した。CAP制は、学生の学力向上と計画的な履修を目的とする制度である。国家試験合格率や進級率などを分析し、効率的に学習できる制度にしていく必要がある。

2020年度自己点検チェックリスト　　【学生生活委員会】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
就職率		・学生への就職関連情報の配信 ・オンラインによる履歴書添削、面接練習 ・就職支援講座、就職ガイダンスの実施	教養93.8% 薬100% 看護91.4% 全体93.8%	1)各種対策の実施状況は以下の通りである。 ・学生への就職関連情報については、大学HPに求人検索のページを設けた。また企業向けの求人会社説明会の申込サイトも設け、随時申込を受け付けた。 ・コロナ禍によるオンライン面接の対応として、ＰＣを使った面接練習やオンラインでの履歴書添削も随時対応した。 ・3年生向けの就職ガイダンスは対面を予定していたが、コロナ禍ということでオンラインでの開催となった(3月実施)。 2)次年度の課題・改善点、改善計画 ・R02はコロナ禍ということで対面面接からオンライン面接への急激な変化があった。R03年度はこれが定着していくものと思われるので、オンラインを前提とした取り組みが求められる。また、卒業研究などで4年生(6年生)と指導教員間の連絡が密にとれないことも想定されるため、チューター面談も含めて指導教員との面談や指導の回数を増やし、記録していくことが求められる。
100.0%	100.0%			
離籍率		・全学部生対象のチューター面談実施 ・面談記録の徹底と離籍にかかわる情報の共有 ・学生関連データ分析による修学状況の把握と支援	3.9% (43/1099)	1)各種対策の実施状況は以下の通りである。 ・教養：学生カルテ記録からすると53%の実施率であった。特に4年生については45%であった。問題のない学生はカルテへの記入が行われなかった可能性もあり、カルテ記入を徹底する必要がある。なお、チューター面談とは別に出席状況の芳しくない学生については個別に対応を行っており、その情報は学年主任会で共有されている。・薬：1,2年生については全員面談を行い、一人平均3回以上であった。3年生についても全員1回以上の面談を行った。4年生以上については、卒業研究室への配属のため面談数は減少(4年71%,5年13%、6年121%) しているが、指導教員との連絡は密にしている。改善点としては面談後の学生カルテの記録を徹底することである。 ・健康医療：全学生に対して前期・後期それぞれ1回以上のチューター面談が実施され、学生カルテに記録された。また、毎回の学科会議において、科目担当者より各授業への出席状況が不良な学生に関して報告された。その情報をもとに、必要に応じて学科主任からチューターに面談の指示が出され、チューター面談が実施された。来年度は、改定されたチューターガイドラインに従い、チューター面談の記録の方法を変更して対応する。 ・心理：全学生の面談実施とカルテ記入がなされていた。なおGPA面談は行われなかった。フレッシャーズセミナー等で学生の出席状況を把握し、学年主任会において学生の学業､生活面についての対策検討を行い適宜指導を行った。 学生関連データの分析による修学状況の把握と支援については、事務局WGがデータを検討した結果、個人情報に配慮し、記入の煩雑さを改善したチューター面談表の改定案が出され、委員会で検討した結果、次年度から新しい面談票で面談を行うことになった。 2) 次年度への課題・改善点として、チューター面談は実施されていると思われるが、実施記録(学生カルテ)の記載が為されていない場合が散見される。これを徹底するために各学部によるチェック体制を強化する。
2.5%	5.3%			

2020年度自己点検チェックリスト　　【入試委員会】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
入学定員充足率		・各学部、学科の特徴が伝わるような積極的な提案をもとに、職員やアドバイザーとのすり合わせを行い、無駄のない効率的な入試・広報活動を展開してゆく。 ・また、HPやSNSにおける広報手段の拡大を図り、資料請求や志願拡大を目指す。	83.9% (277名/330名)	薬学部 61名（49）、看護学部 83名（76）、作業療法学科 22名（38）、理学療法学科 76名（69）、心理学部 35名（34）、合計 277名（266）ただし、カッコ内は昨年実績。 取り組み状況： １　コロナ禍で、当初の計画のとおり高校訪問ができず、移動制限のなかった７月に集中して実施した。 ２　HPやSNSによる広報活動を、各学部で取り組んだ。 ３　ダイレクトメールを強化した。 ２と３は、次年度以降も強化してゆく必要がある。 次年度への課題・改善点： 不測の事態で、対面での企画は、高校訪問を含めほとんど実施できなかった。そんな状況下でも、皆の頑張りで、昨年よりも僅かに入学者を増やすことができた。コロナ問題は急速に収束するとは思えないので、しばらくHP,SNS,DMなどを中心にして広報活動を展開する必要があると思われる。さらに次年度は、薬学部の定員減（定員 90名→ 60名）などにより、さらなる目標達成率の向上が望まれる。しかし、定員を減らすと受験生が減る傾向にあるので、３～４年は、必死に努力する必要がある。 改善計画： 達成率の悪い部分の原因を洗い出し、重点的に対策する。動画の配信やSNSによる広報を強化し、遠方からでも本学の情報が得られるよう工夫する。
100% (330名)	80.6% (266名 /330名)			
OC参加者		医療創生大学の各学部、学科の特徴が伝わるよう募集活動を展開し、コアエリアの生徒・教員・保護者に、教育内容や本学が果たしている地域貢献を的確に伝える工夫を重ねる。	来場型248名 (高校生のみ)	コロナ禍で従来の自由参加型ではなく、午前・午後入替制でのオープンキャンパスを実施した。また、移動制限があった期間は、WEBオープンキャンパスとしたため、WEBオープンキャンパス参加者数を把握することができなかった。 取り組み状況： 動画コンテンツをYouTube配信で行った。（各学部の８月オープンキャンパス体験風景、各学部の施設紹介、各学部の学部紹介、学費について、奨学金について、入試説明、キャンパスツアーなど） 次年度への課題・改善点： 次年度も、WEBオープンキャンパスと来場型オープンキャンパスを実施する。なお、WEBオープンキャンパスの参加者数を把握できるよう新たにシステムを導入する。今年度同様、動画コンテンツなどを駆使して、本学の特徴をアピールし、募集活動を展開していく。 改善計画： より説得力のある動画を工夫し、配信する。リアルな実態が最も説得力がある。しかしそのために、あくまでの質の高い教育を実践し、積み上げ続けるという大前提の上に成り立つことは言うまでもない。良い教育環境を醸成し、しっかりとそれを伝えきる必要がある。
2,000名	1,661名 (内高校生 861名)			

2020年度自己点検チェックリスト　　【FDSD委員会】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	各種対策の取組み状況、次年度への課題・改善点、改善計画
研修会		ICTを活用した遠隔授業実施に向けて、体制作り、システム準備、研修などを行う。	全学研修会は１回、各学部研修会は１回以上実施した	今年度のFDSD研修は新型コロナ感染拡大防止の観点より集合研修方式は中止としたが、東北大学教育支援センターが公開している各種能力開発教材「10のPDモジュール」から１つ以上のモジュールを選択、受講し、レポートを提出する形式で行った。 10月中に全教職員に受講を呼びかけ、教員および職員が100%受講し、レポートを提出した。 令和3年度の研修会は、「学修を行うために支障（発達障害など）がある学生に対する対応について」FD研修会として8月23日に行うこととし、柏キャンパスも含めてオンラインでの開催準備を行っている。 各学部の授業カリキュラムやスケジュールの関係で、全学一斉実施が難しく、オンライン実施やアーカイブを後日聴講して補講するなど、全教職員が全員参加できる実施体制を検討する。
全学1回、各学部1回	全学1回、各学部1回			
参観科目		一昨年度は50科目、昨年度は100科目の授業公開科目から選択して授業参観を行い、参観報告書を提出していたが、今年度は原則的に全科目を公開対象として実施する。	原則全科目を対象に後期実施した	前期の授業参観は新型コロナ感染拡大防止の観点より中止したが、後期については、専門教育科目においてはほぼ対面授業で行われている状況であることから、非常勤講師担当科目、卒業研究、ゼミ、実習科目、教職科目、集中科目を除き、原則全科目を対象に令和2年12月7日（月）から1月23日（土）まで実施した。 1月25日時点で、薬100.0%、看護96.3%、作業100.0%、理学100.0%、教養85.7%、心理100.0%、地域連携センター60.0%、全体としては96.2%であった。 結果については、各学部科目はそれぞれの学部単位でまとめて、Garoon上に電子ファイルで公開する。 次年度についても同様に授業参観制度を継続し、授業改善を行っていく予定であり、全教員が参加することを目指す。
可能な限り公開	前期後期各100科目			
アンケート		manab@ISUを用いて、授業改善アンケートを実施し、アンケート結果を各教員へフィードバックを行う。それにより、各教員の授業改善および各学部内でFD活動を実施することで、授業の質の向上を図る。	11名以上履修科目の全科目について実施した	前期はmanab@ISUを用いて、後期はC-Learin g を用いて、原則11名以上が履修登録している科目についてアンケートを実施した。アンケート結果については、前期はFDSD委員および事務局で集計を行い、担当教員および学部長へフィードバックを行った。後期はアンケート実施後すぐに自動集計が可能であるため、各担当教員自ら結果をダウンロードすることができる。学部長への報告のとりまとめ、および学外への公開については、前期と後期で集計方式が異なるため、調整を行っている。 次年度は「授業アンケート」に名称変更を行い、アンケート結果を基に各学部で研修会を行うことを検討している。
11名以上履修の全科目	11名以上履修の全科目			

2020年度自己点検チェックリスト　　【企画課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
入学定員充足率		病院や老健施設などの医療機関をターゲットとした広報の実施 ①DVDの配布	入学定員充足率	・DVDを作成し、法人本部へ提出し、葵会関連施設への配布を依頼した。 認知度向上に役立ったと考えているが、次年度はYouTubeによる動画配信で実施する計画である。
100% (12月末) (60%)	81% (12月末) (55%)	受験生の親世代をターゲットとした医療人材育成紹介のSNSの立ち上げ ①医療従事者コラムリレー	84% (12月末) (63%)	・多くのSNSを立ち上げることにより、閲覧者が分散される恐れがあることから、新たにSNSを設置することを避け、ホームページ上で医療従事者コラムリレーを実施した。新型コロナウイルスの影響により、一部予定を変更することとなったが、年間8件の情報を発信することができた。 次年度は、学科の広報の中で、職業理解を図る。
		SNSおよびYouTubeでの露出増加を目的とした組織の立ち上げ （募集広報WG） ①「今日の大学」の実施（1日1件）　④HP構成、内容の見直し ②教員コラムリレー　⑤HP記事掲載（1日1件） ③DMの実施　⑥Twitter広告（年2回）		①予定どおり実施することができた。（要学部の協力） ②教員の協力のもと、年間11件のコラムを実施することができた。 ③学部の協力を得て、年間10件のDMを送付することができた。 ④HP構成・内容を見直し、リンクページの消失等の不具合箇所を修正した。 ⑤「今日の大学」にニュースを含めて実施した。（要学部等の協力） ⑥ｱﾝｻﾝｸﾞｼﾝﾃﾞﾚﾗ、ｽｶﾗｼｯﾌﾟ入試の実施に合わせてTwitter広告を実施した。 基本的には前年度の取組みを継続し、内容のさらなる充実を目指す。

2020年度自己点検チェックリスト　　【企画課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
－	－	補助金増収のための施策検討 ①「教育の質」指標について実態を調査し点数獲得に向けた施策を検討する。	－	①「教育の質」指標の次年度のポイント獲得に向けて、以下のような取組を実施した。 ・過年度卒業生アンケートの実施、全学教育委員会細則の改定、自己評価体制の見直し、教育課程の編成方針の提示、情報の公表、「人材育成の目標」の設定後のFD・SDの実施等 進捗の管理を徹底しないと進展しないケースが見受けられるため、管理の徹底と目的意識の向上を定期的に啓発する。
－	－	その他 ①高校訪問の実施（686校×2回） ②進学情報Webサイト情報管理（イベントごとに随時） ③履行状況調査 ④修学支援申請 ⑤国際看護準備	－	①県をまたぐ移動の制限を踏まえ、7月に集中実施（176校を訪問）。 ②WEBの受験媒体に適宜情報を提供することができた。 ③看護、健康医療、心理、生命理工学研究科の履行状況報告済。看護学部が延長されたため、継続して対応案を検討する。 ④修学支援制度の更新申請を行い、認定された。 ⑤国際看護学部設置届出に協力した。 基本的には前年度の取組みを継続し、内容のさらなる充実を目指す。
－	－	完成年度後の学部学科の統廃合や定員の振り分け・見直しの検討 ①臨床心理学科の完成年度後、健康医療科学部への統合の可否、および適正定員について検討する。	－	①心理学部の健康医療科学部への統合の件は、教養学部改組時と同様に心理学部の存在感が薄れる恐れがあることから検討を保留した。 令和3年4月に、薬学部の入学定員を90人から60人へ減ずることが令和3年3月理事会で承認され、令和3年4月に定員変更の届出を行う。

2020年度自己点検チェックリスト　　【企画課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
－	－	今後の学部学科の設置を検討する基礎資料の収集と提言の作成 ①Dxの推進とリカレント教育に関しての検討 ②通信制学部の設置検討	－	①Dxの推進の進行段階とリカレント教育の提案について、ディプロマポリシーの見直し等を含めて提言した。 ②通信制学部設置検討委員会が設置され、検討がなされていたが、イノベーション創生研究所が提案した融合ビジネス学部等の内容で田口副学長から文部科学省へ相談した。委員会は流会し、看護学研究科（仮称）の設置検討に変更した。 --- 現況を踏まえながら必要に応じて検討する。

2020年度自己点検チェックリスト　　【教務学生課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
教育改革		ＥＭ準備・教育支援 ・ＥＭ運用学生データの整理 ・全学部での入学前教育と基礎学力向上機会の提供(入試広報連携) ・ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ(manaba@ISU)運用徹底(ICT連携) ・学習達度状況の把握(チューター面談徹底) ・各種調査の見直し･実施	教育改革	EM準備のための「保有学生データ、GPA制度、CAP制度等の教学上の諸制度」の分析を行った。本学学生の標準モデルを構築するため、離籍者・留年者の特徴を把握、国家試験合格に必要な「授業レベル」「成績評価」が科目や教員単位で適した授業・評価が行えているかを「ヒストグラム」を活用し適正性の検証を実施した。また、シラバスを含め、全てのデータを「campusplan（C-learning）」へ一元化し、各調査や分析の利便性を図った。
キャンパスプラン移行100%	－		キャンパスプラン移行率100%(C-learning含)	再試験や再々試験の結果が最終成績に反映されており、合格ラインに集中する科目も散見された。今後、再試験前の成績データから、最終成績までを追うことができるよう、教務委員会を中心に継続した活動を行う。基礎学力不足を補うことを目的とした「クラムスクール」」も薬学部・健康医療科学部にて導入・実施したが、全学ならびに学年別にての実施検討を行う。
入学定員充足率		募集ならびに入試制度の設計とＷＥＢ移行 ・資料請求～入学実績の分析とターゲットエリア訪問・定期情報の提供（志願者＝入学者） ・対面広報のＷＥＢコンテンツ化 ・新入試制度初年度への対応（教員･HP説明）	入学定員充足率	総合型選抜や学校推薦型選抜より、調査書以外にも受験生自身が高校３年間の活動内容を記入する「活動記録記入票」の提出を課し、大学進学の志願理由を高校教員･受験生の両面から高校活動を面接の際にも活用･評価できるように改訂、また「ルーブリック評価基準」に基づき選抜を実施した。学力試験に関しても全ての入試において課すこととし「学力の3要素」に対して多面的・総合的に選抜を行った。
100% (年内) (60%)	80.6% (年内) (55%)		83.90%	「調査書・活動記録記入票」や「ルーブリック評価基準」に関して、学部の特性に応じて評価項目や基準を再度見直し、入学後から卒業までに、大学教育に耐えうる視点を含め、分析が必要。また、入試改革「３本の柱」が崩壊している現状、受験生が混乱しない「本学に適した選抜方法（例：外部資格試験利用等）」を確立し、発信する必要がある。

2020年度自己点検チェックリスト　　【教務学生課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
離籍率		離籍・留年原因の早期発見と対処 ・チューター面談徹底、離籍につながる軌跡の管理と分析（学習達度状況･教育改革との連携） ・学生カルテ、低出席率学生の早期フォロー徹底（教学⇔学部⇔チューター記録連携） ・学生生活･諸活動へのオンライン相談の開設 ・各種奨学金の周知、サポート	離籍率	離籍の可能性がある学生の早期抽出のため、チューター面談の強化を行った。面談の流れと方法を明確にするため、全学離籍対策システムを構築し、チューターガイドラインの改定および学生カルテへの記載方法に評価基準を加えることで、離籍アラートを抽出しやすい環境を整えた。学生サポートとして、学生相談室にオンライン相談窓口を設置し、登校せずとも相談が受けられるようにした。また、学友会活動を途絶えさせないよう、従来とは大幅に形を変えて学園祭を開催した。
2.5%	6.0%		教養学部2.3% 薬学部5.4% 看護学部2.8% 健康医療科学部3.2% 心理学部5.8% 大学全体3.9%	学生カルテへの記入に際して、機微情報であるが故の拒否反応があったため、記載内容を見直し、引き続き協力を仰いでいく。面談の実施徹底については学部ごとのチェック体制を徹底する。C-Learningを活用し、出席状況を週単位で把握し、学部にフィードバックすることで、迅速で精度の高い離籍可能性学生の抽出を行っていく。奨学金についてはC-Learning上に情報を集約してサポートする。
留年率		同上	留年率	欠席届をオンライン化してデータの集約をしやすくしたことにより、提出状況から離籍や留年の危険性のある学生を抽出し、各学部と情報共有してサポートにあたった。特に専門科目不合格の学生に対しては、状況を科目担当教員に確認し、再試験や課題提出の機会を創出した。また、全学共通科目に関しては他学部科目担当者と学部の考え方に対して調整を図り、制度の見直しを行った。
6.0%	9.0%		教養学部2.3% 薬学部12.8% 看護学部2.2% 健康医療科学部2.1% 心理学部0.0% 大学全体5.9%	C-Learningによって出席状況の把握がしやすくなったことを受け、学部と協働してより細かいサポートを行っていく。また、学部での把握が難しい全学共通科目の情報を逐次学部に伝達する。

2020年度自己点検チェックリスト　　【教務学生課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
就職率		オンライン時代に対応する就職サポート ・リモート就職サポートの実施 ・就職情報の完全Web化（キャリタスUC利用） ・オンライン就職イベントの紹介 ・対面就職イベント実施時の対応検討	就職率	登校制限に対応するため、オンライン就職相談窓口を設置し、求人情報は求人票をキャリタスUCの利用により全てWebベースで提供し、各種就職情報に関してはmanaba上に就職情報を集約して情報提供を行った。リモートで会社説明会や面接を行う企業が増えたことで、結果的にリモート面接の練習になり、学生の就活スキルを上げることができた。学内で実施の合同企業説明会は、看護学部は対面で実施したが、薬学部と教養学部はZoomを利用したオンラインで実施した。
100%	教養学部 100% 薬学部 95.0% 大学全体 98.4%		教養学部93.8% 薬学部100% 看護学部91.4% 大学全体94.4%	合同企業説明会をオンラインで実施した件について、企業、学生とも対面での希望が多かったが、半数近くの参加者がオンラインでも可とする意見であった。薬学部については学生の積極性が高いので、企業形態ごとに日程を分けて実施するなど、企業と学生の接触機会を増やすように検討する。
ICT改革		情報環境の整備と業務の電子化 ・コンピュータシステムの更新 ・遠隔授業の安定、在宅勤務実施体制の整備 ・事務処理のＩＣＴ化(全部署で実施可の状態)	ICT改革	コンピュータシステムは、各アプリケーションシステムを含め１月に稼働を開始した。遠隔授業については、MS365のテナントを再構築することにより、教員と学生の権限を明確に分けることが可能となった。しかし、学内ＬＡＮ環境としては、情報機器を利用するために能力不足となる点が発見された。また、事務処理のICT化については、利用ツールの選定に時間を要したが、Garoonのワークフロー機能使って電子化し、３月に電子化の説明会を実施している。ただしX-Point利用予定の電子化の作業は完了していない。
2月 稼働率 100%	―		3月 稼働率 100%	・学内無線ＬＡＮ環境の改善として、接続台数の増加および老朽化した無線ＡＰの更新を行う。 ・X-Pointを利用したワークフロー利用環境を整備し、教員の利用を可能とする。 ・国際看護学部を主とした学校法人内のシステム連携環境の整備する。

2020年度自己点検チェックリスト　　【総務課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
職員人件費比率		人件費削減策の継続実施 時間外業務の抑制 チームによる業務遂行	職員人件費比率	人件費削減策を継続実施した。 残業の事前申請の徹底化は部署にバラツキがあり徹底はされなかった。また、業務が個人に付いているケースがあり、チームで業務をおこなう体制が今一歩進まなかった。
16.0%	18.0%		7.8%	令和３年度も職員人件費比率16%を目標にする。 2018年2月より実施している人件費削減策を継続実施する。 担当業務を明確にし、チームで業務を遂行し時間外業務を抑制する。
教員人件費比率		人件費削減策の継続実施	教員人件費比率	人件費削減策を継続実施した。
39.0%	45.0%		47.0%	令和３年度も教員人件費比率39%を目標にする。 2018年2月より実施している人件費削減策を継続実施する。
経費の効率化		①薬学部棟内講義室LED照明の交換修理 ②管理経費の経費削減検討・実施 ③教育経費の経費削減検討・実施	経費の効率化	①薬学部棟内（2階講義室6室（16-201，202，203，204、205，206）B1階講義室　2室（16-B107、B108）ロッカー室）の照明を科学研究費助成事業の間接経費を用いて11月にLED化工事を実施した。 ②③電力契約先の変更、調達方法の見直し、ペーパーレスの推進、ICT化の推進、講義用什器類の新規購入を修繕や流用で代用し、大学運営の維持管理にかかる経費の削減を行った。
管理経費 ＋5% 教育経費 ＋16%以内 (収定120増)	管理経費 ＋2% 教育経費 ＋10%以内 (収定60増)		管理経費 ▲19% 教育経費 ▲4%以内 (収定120増)	令和３年度は前年度管理経費＋2%、教育経費＋10%以内（収容定員40名増加による）を目標に実施する。 ①LED化[蛍光管→LEDへの交換] ②経費削減策の検討・実施（無人コンビニの運用見直し）

2020年度自己点検チェックリスト　　【総務課】

年度目標			自己点検・評価	
数値目標	前年度数値	各種対策	数値目標結果	上段：各種対策の取組み状況、下段：次年度への課題・改善点、改善計画
業務の効率化 事務の電子化（第１次）	―	①調達申請（図書含む）の電子化（総務課） ②旅費精算の電子化（総務課） ③公文書の電子化（企画課） ④起案の電子化（企画課） ⑤出張命令書兼報告書の電子化（教務学生課） ⑥遠隔会議の実施環境の整備	業務の効率化 ①調達申請5万円以上 ③公文書 ④起案 ⑥遠隔会議	①図書調達及び物品等調達は2021年4月1日より電子化を開始した。②旅費精算は電子化が不可のため精算ミスを軽減する改良版様式を作成した。③公文書の電子化はGroonのスペースを利用し9月24日から利用開始した。④X-Pointを利用し電子起案を9/15日より、理事長決裁の調達を9月23日より利用開始した。⑤出張命令書兼報告書はワークフローを利用し2021年4月1日より供用開始した。⑥遠隔会議は6月にテレビ会議システムを設置し供用開始した。 物品・消耗品等の調達及び図書調達について、現行の紙による調達申請から電子による調達申請方式、出張命令書及び報告書の電子化、Garoonのワークフロー機能を利用した方式を2月末までに制作した。電子方式を令和3年4月より利用開始する。 ①電子調達申請のスムーズな運営 ②Xpointの活用 ③業務に対しての問い合わせ削減（教授者便覧の見直し、Q&Aの作成）
学生の居場所整備 学習室整備 学生寮増室 学生駐車場	―	①6号館東館に学習室5室整備 ②学生寮第二次工事24室増設 ③6S-314,315,316,317の学習スペース化 ④学生駐車場整備（体育館裏）	学生の居場所整備 全て完了	①6号館東館に学習室5室（6E-202，203，204，205，206）を新たに整備し、看護学部が卒論指導用として7月1日より利用を開始した。　②学生寮に24室増設の工事は9月末に完了した。　③3月下旬に4室（6S-314,315,316,317）を整理整頓し健康医療科学部へ学習スペース（共用）として貸与した。　④１月下旬に6号館と体育館間の空地と現在不使用の旧ビオトープ空地に学生用駐車場（200台）を整備した。 教務学生課と連携し学生からのアンケートなどを参考にしながら要望等があれば学生の居場所を整備する。
学習環境整備 学習環境整備	―	①薬学部映像音響設備5室更新 ②薬学部実習室椅子300脚の修理 ③健康医療科学部用机付椅子110脚の整備 ④テニスコート関係設備の修理（壁打ち、暴風ネット、苔除去）	学習環境整備 ①薬学部映像音響設備5室更新 ②薬学部実習室椅子の修理 ③テニスコート関係設備の修理（暴風ネット、苔除去）	①薬学部棟 講義室（16-201，202，204，205，206）5室の映像・音響装置を更新した。　②安価なキャスター（1脚あたり1,190円）を228脚分購入し、総務課スタッフで回転丸椅子キャスターの交換作業をおこない、11月末までに状態の悪い椅子のキャスターのみ交換した。　③11月末に健康医療科学部の教員の協力により86台を移動し、不足分24台は新規購入し整備した。　④暴風ネットを1月下旬に交換修理した。また、テニスコート10面の苔除去を３月下旬で完了した。 ①コロナ感染防止の継続実施 ②AV大講義室映像音響設備更新 ③施設修繕 ④学生用プリンタの学部への設置

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**薬学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・薬学部の教育研究上の目的は、本学の教育理念・目的を踏まえて、豊かな人間性を有し、地域の人々の健康を率先して守ることのできる、研究マインドと確かな知識に裏打ちされた、自律・自立した薬剤師を育成することである。これを達成するために薬学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は5項目から成り、全体として「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に明示されている「薬剤師にとって必要な10の資質」をすべて網羅している。 ・ディプロマ・ポリシーは、入学時に配布する「履修の手引」に掲載するとともに、新年度開始時のオリエンテーションにおいて口頭ですべての学生に周知している。さらに、その科目がディプロマ・ポリシー5項目のうちのどれを育成するものであるかを担当教員がシラバスに明示することで学生に周知することを図っている。加えて、ホームページに掲載されており、広く社会に公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現在のところ問題点は見られないが、今後「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改定が行われる場合には、それに合わせて改善する必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
薬学教育評価機構による第三者評価の指針によると、ディプロマ・ポリシーの毎年度の見直しが求められている。そのため薬学部運営委員会で毎年度検討している。昨年度の検討では、問題は見られないとの結論に至った。中央教育審議会「3つのポリシー策定及び運用に関するガイドライン」「教学マネジメント指針」を参考に見直し、今年度も検討を行う予定である。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**薬学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・薬学部の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は4項目から成っている。教育課程の体系、教育内容、授業科目区分、授業形態などが明記されている。またディプロマ・ポリシーとの連関性も明記されている。 ・カリキュラム・ポリシーは、入学時に配布する「履修の手引」に掲載するとともに、新年度開始時のオリエンテーションにおいて口頭ですべての学生に周知している。さらに、その科目がディプロマ・ポリシー5項目のうちのどれを育成するものであるかを担当教員がシラバスに明示することで学生に周知することを図っている。加えて、ホームページに掲載されており、広く社会に公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
カリキュラム・ポリシー（1）は、「「イグナイト教育」を初年次から順次開講し、主体的に学ぶ姿勢ならびに医療の担い手にふさわしいヒューマニズム・倫理観を育みます。」であるが、「イグナイト教育」はヒューマニズム・倫理観以外に「薬剤師に必要な10の資質」のいくつかを育むことに寄与しているので、今後、修正・加筆が必要である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
薬学教育評価機構による第三者評価の指針によると、カリキュラム・ポリシーの毎年度の見直しが求められている。そのため薬学部運営委員会で適切な文言を検討していく予定である。また、中央教育審議会「3つのポリシー策定及び運用に関するガイドライン」「教学マネジメント指針」を参考に見直し、検討していく。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**薬学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を網羅して、体系的にカリキュラムが組まれている。教育課程の整合性、順次性、体系性は、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーにより確認できる。 ・単位制度の趣旨に沿った単位が設定されており、授業外時間も含め1単位45時間として、シラバスに授業外時間数も掲載されている。 ・シラバスに、個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等）が掲載されている。 ・イグナイト教育・クラムスクールによる初年次教育、高大接続への配慮が行われている。教養教育科目を選択できるように、時間割を作成している。 ・教育課程の編成における内部質保証推進組織等の関わりとして、本薬学部内に「薬学教育検証委員会」を設置し、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
高学年において、教養教育科目を選択する時間が取れていないという問題点がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
高学年において、教養教育科目を選択する時間が取れない問題点について、教養教育科目の担当教員と薬学部の教員とで検討していく。中央教育審議会「教学マネジメント指針」を参考に、教育課程の整合性、順次性、体系性を見直していく。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**薬学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・１年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・キャップ制度により、１学年ごとの履修登録単位数の上限を設定している。 ・シラバスへは、到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準が明示されている。シラバスには「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSBOが記載されており、概ねコアカリの授業内容が行われているが、現在その整合性の度合いを調査中である。 ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導として、ほとんどの科目でミニッツペーパー、計算演習、LITE、SGDなどのアクティブラーニングを取り入れている。ほぼ全ての薬学教員はイグナイト教育に参加し、学生と共にアクティブラーニングの手技を学び、専門科目に反映させている。これらは「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の授業方法に準拠して行われている。教育の実施にあたって、本薬学部内に「薬学教育検証委員会」を設置し、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSBOと授業内容の整合性が必ずしも取れていない部分も散見される。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSBOと授業内容の整合性について、教科書「スタンダード薬学シリーズⅡ」（「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSBOを解説している日本薬学会編集の標準的教科書）を用いて詳細に調査中である。調査から得られた基礎資料を基に、各科目へ適正なSBOの配置を行う予定である。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**薬学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・成績評価の客観性として、ルーブリックによる評価の導入を進めている。また定期試験結果の分布、成績分布の解析などによる成績評価の適切性を確認するようにしている。厳格性を担保するための措置として、「履修の手引き」に記載の基準を用い、全教員出席の教授会での審議を経て進級判定を行っている。 ・卒業・修了要件は、学則ならびに履修の手引きで周知している。 ・卒業研究論文の審査基準の明示・公表として、ルーブリック評価を設定し、学生に周知している。客観性及び厳格性を確保する措置として、教員3人からの評価を行っている。 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示について学則ならびに履修の手引きで周知しており、適切な学位授与として履修の手引きに記載の基準を用い、全教員出席の教授会での審議により卒業判定を行っている。 ・成績評価、単位認定及び学位授与にあたって、本薬学部内に「薬学教育検証委員会」を設置し、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
一部の科目で、定期試験結果の分布や最終成績分布の偏りが見られる。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
適切な成績評価および授業改善のための薬学部FD研修会などを行う予定である。また、授業の初回に前年度授業評価アンケートにおける学生からの改善要望に対してこれに答える形で改善点を提示する試みを始めた。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**薬学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標として、4年次において主に知識を評価する客観試験CBTならびに実技を通して技能・態度を評価する客観的臨床能力試験OSCE の「薬学共用試験」が行われ、5年次の実務実習を行う能力を評価する。また6年次においては「薬学総合演習」の科目試験「薬学総合試験」において6年間に身につけた学習能力を評価している。 ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法として、6年次における薬学総合演習の科目試験を用いて薬剤師に必要な知識・技能・態度を評価している。学生調査として、卒業生からのカリキュラムに関するアンケートを行っている。就職先へのアンケートは行っていないが、毎年度の就職率を評価している。 ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わりとして、本薬学部内に「薬学教育検証委員会」を設置し、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
ディプロマポリシーを総合的に評価するには至っておらず、薬学教育評価機構の第三者評価でも改善するよう指摘されている。また、就職先へのアンケートは現時点では行われていない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
ディプロポリシーを総合的に評価する方法について、本薬学部では薬学教育検証委員会ならびに薬学部自己評価支援委員会により検討を行っている。また就職先へのアンケートの検討も行っている。中央教育審議会「教学マネジメント指針」を参考に、学生の学習成果を把握、評価するための方法を改善していく。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**薬学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ・点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・本薬学部でIRを担当する教育支援室などにより、定期試験、模擬試験、国家試験の成績分布を専門分野ごとに解析・評価している。薬学部カリキュラム・アセスメント・チェックリストを策定し、本薬学部内の「薬学教育検証委員会」により６年制薬学教育におけるPDCA稼働状況を点検することにしている。 ・学習成果の測定結果を活用した、授業改善のための薬学部FD研修会を定期的に行っている。 ・点検・評価結果に基づく教育課程およびその内容、方法の適切性の改善・向上に向けた取り組みついては、来年度以降の検討課題と認識している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
令和2年度においてはいまだ点検・評価結果に基づく改善・向上についての評価は行われていない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
・令和3年度より「薬学教育検証委員会」で教育課程およびその内容、方法の適切性について評価し、関連部署に改善に向けた取り組みを指示することにより教育のPDCAサイクル稼動を実現したい。今後更に、中央教育審議会「教学マネジメント指針」を参考に、教育の質保証制度について見直していく。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**看護学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
看護学部のディプロマポリシーをホームページ、履修の手引き等に掲載し公表している。 ディプロマポリシーに掲載してる「ヒューマニズム」「倫理観」「EBN」「多職種連携・協働」「災害時の活動」「持続可能な主体的学修」などについて、シラバスと連動させている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点における課題・改善点はなし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現時点における改善計画は予定なし

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**看護学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
看護学部のディプロマポリシー、ならびにカリキュラムポリシーを設定し、ホームページや履修の手引き上に公表している。また、カリキュラムポリシーに基づき、授業科目を体系化しカリキュラムマップ、カリキュラムツリーとして履修の手引きに掲載している。さらに、シラバス上に授業形態やディプロマポリシーに関連したルーブリック評価内容を掲載してる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点における課題・改善点ははし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
令和4度から改正カリキュラムの施行となる。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等の変更が必要となるため、委員会を設置し検討していく。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**看護学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
カリキュラムマップの軸に、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを据え、年次ごとの各授業科目の位置づけがわかるようにしている。各授業科目は、初年次教育のフレッシャーズセミナーをはじめ、全学共通教育科目を低学年に配置し、順次看護専門科目群を履修するよう体系化している。個々の授業科目の内容及び方法や位置づけは、シラバス内に明記している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点における課題・改善点はなし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
令和4度から改正カリキュラムの施行となる。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき教育内容等の変更、科目の追加、単位の設定、順次性等全体の見直しを図るべく委員会を設置し検討していく。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**看護学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・１年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学生が主体的に学習課題に取り組めるようCAP制度を設けている（上限年間45単位）。シラバスには、授業概要の他、到達目標、授業内容・形式、時間外学習の目安時間、ルーブリック評価等を明記しており、学生が学習すべき内容や到達指標について、具体化を図ってる。授業形態として、座学のみならず演習を取り入れ、グループワークやシミュレーションにより主体的に学習できるよう工夫をしてる。また、講義、演習、実習という順序により、知識や技術の活用を図ることができるようにしている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点における課題・改善点はなし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
令和4度からのカリキュラム改正に伴い、科目や教育内容等の変更や追加が必要となる。委員会を設置し、授業概要の他、到達目標、授業内容・形式等の検討していく。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**看護学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
成績評価は、ルーブリック評価を取り入れており、客観性、厳密性の担保に努めている。また、履修の手引きには、卒業・進級要件を明記しており、年度末に教授会において卒業判定会議、進級判定会議を実施してる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点における課題・改善点はなし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現時点における改善計画はなし

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**看護学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学習成果の指標として、ルーブリック評価を取り入れて評価基準を明確化、客観化している。ルーブリック評価の内容は、ディプロマポリシーに基づいて設定されており、連携させている。各授業科目の初めには、授業概要の他、評価内容・方法についてもオリエンテーションし、学生への周知を図っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点における課題・改善点はなし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現時点における改善計画はなし

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**看護学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ・点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
2020年度末に完成年度を迎え、PDCAサイクルのDの段階を終了した。今後はCAの段階に入ることとなる。学生からの授業アンケート結果等を踏まえた改善策の検討のために、次年度はFD研修として検討の機会を設ける計画である。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
2021年度のFD研修として、学生からの授業アンケート結果等を踏まえた改善策の検討をし、PDCAサイクルを機能させる。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
看護学部内FD研修として、前年度までの授業アンケートや再履修状況等を踏まえた改善策の検討をする。また、2022年度からの新カリキュラム導入に反映させる。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**健康医療科学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
健康医療科学部のディプローマポリシー（学位授与の方針）が設定され、大学ホームページで公表されている。作業療法学科及び理学療法学科のディプローマポリシー（学位授与の方針）も設定され、大学ホームページで公表されている。4年以上在学し、必要な単位を修得した学生に「学士（作業療法学）」または「学士（理学療法学）」の学位を授与する。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点で改善点や課題はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画の予定はなし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**健康医療科学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
○教育課程の編成・実施方針 健康医療科学部のカリキュラムポリシー（教育課程編制・実施の方針）が設定されている。これは、履修の手引きや新入生ガイダンスなどで学生に説明されるほか、大学ホームページにも掲載されているため、学生、教職員、社会にも広く公表されている。 ○学位授与方針との連関性 １）健康維持・増進の担い手としてふさわしい人間的視野と教養を身につける ２）専門教育科目において、作業療法や理学療法に関する科学的根拠に基づいた専門知識・技術を身につける ３）地域の課題解決に向けたリハビリテーション専門職としての知識と技術を身につける ４）臨床実習で対象者との関わり方、他職種連携など臨床現場で統合する

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点で課題や改善点はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画の予定はなし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**健康医療科学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
カリキュラムポリシーに基づき、「全学共通教育科目」では初年次教育、リテラシー、外国語、健康スポーツ教育、一般教養の科目を配置している。専門教育課程としては、「専門基礎科目」では、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念に関する科目、「専門科目」では基礎作業療法学及び基礎理学療法学、作業療法評価学及び理学療法評価学、作業療法治療学及び理学療法治療学、地域作業療法学及び地域理学療法学、臨床実習に関連する科目を体系的に編成している。各科目の内容は大学ホームページ内でシラバスを公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
設置計画の確実な履行状況となるよう努めており、現時点で課題や改善点はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画は予定していない。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**健康医療科学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・１年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・年間修得単位数の上限（４５単位）を設定している。 ・シラバスは大学ホームページで公表している。シラバスには授業概要、実務経験を活かした授業内容、到達目標、学習のアドバイス、ディプロマポリシーとの関連、到達レベル、成績評価観点・評価方法、授業計画、授業のフィードバック方法、授業の進め方、課外授業の指示、教科書・参考書などの項目がある。授業開始時に学生に提示し、シラバスに則って授業を展開し、学生は自己学習を進めている。 ・健康医療科学部設置認可申請書を適宜確認しながら、効果的な教育になるよう努めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
・医療系総合大学としての特徴を活かした授業展開を実施していく。 ・学生の自己学習や授業時間外の自主的な勉強会（グループワーク）については改善の余地がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
・医療系総合大学として、薬学部、看護学部、心理学部と連携してチーム医療、他職種連携の観点から授業を展開できるか検討する。 ・学生の効果的な自己学習を促すため、学習計画の立案、時間管理等を解剖学、生理学、運動学を中心に支援する。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**健康医療科学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・シラバスに記載された成績評価方法に基づき成績評定を行っている。 ・公正かつ厳正に行うために、学科構成員で成績判定会議を開催している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点で課題・改善点はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画は予定していない。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**健康医療科学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
現在、2年生までしか在学していない（2022年度末で完成年度となる）。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点で課題や改善点はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画の予定はなし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**健康医療科学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ・点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・学部内及び全学でFD研修会を開催し、学部構成員で教育方法、課題などを共有している。 ・学習成果については、全学で前期・後期終了時の授業アンケートを実施しており、アンケート結果を基に担当教員が授業方法、内容を見直す機会となっている。 ・適宜、健康医療科学部設置認可申請書を確認しながら進めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
授業内容や方法について、定期的にアンケートを実施し常に授業の見直しを検討する必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
学部内FD研修会を実施予定。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**心理学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学則に定められた全学的な教育目標である「科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生」を受け、心理学部の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」を定め、大学ウェブサイトで公表している。この方針は、学生が修得することが求められる知識、技能、態度の観点から、学位にふさわしい学習成果を明示している。また、この方針は、入学時に配布する「履修の手引」にも掲載し、学生に対して周知を図っている。以上のことから、心理学部においては、全学的な基本方針に合致した学位授与方針を定め、公表していると判断できる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点での課題・改善点はとくになし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画は特になし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**心理学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
(1)「専門教育科目」において基礎学力に支えられた専門性を身につけるための教育システムとして、7つの心理学の分野に基礎から応用までの科目群を設置すること、(2)「専門教育科目」の中にキャリア教育分野の科目群に加えて、2年次及び3年次の演習、4年次の卒業研究をそれぞれ設置すること、(3)2年次及び3年次の演習をはじめ、アクティブラーニングによる課題解決型の授業を多く展開すること、そして、(4)上記科目群を順次、適切に履修することにより、①主体的に学び続ける態度を醸成し、②心の健康に関する心理学の基礎的な知識・技能、および③人間関係を理解し対応するための心理学の基礎的な知識・技能を修得し、④実証科学的な観点に立ち、適切に情報を処理し、現代社会の諸問題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を修得することを可能にするよう教育課程を編成し、公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点での改善点や課題はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画の予定はとくになし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**心理学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
カリキュラムポリシーに基づき、必修科目として「初年次教育科目」「リテラシー教育科目」「外国語教育科目」「健康・スポーツ教育科目」を配置している。また、「一般教育科目」では3つの分野にわたって幅広く履修できるよう各科目群を体系的に編成している。各授業科目の具体的内容については、大学ホームページでシラバスを公表している。「専門教育科目」においては、心理学の7つの分野について、基礎的な内容を扱う科目を必修としたうえで、さらに深く学ぶことを可能にする選択科目を配置している。 　これらの教育課程の体系を示すものとして、カリキュラムツリーを公表している。また、「一般心理モデル」と「臨床心理モデル」の2つのパターンの「履修モデル」を設定し、公表している。その他、すべての科目については番号を付し、学習の段階や順序性を示している。また、4年間を通じて、少人数制クラスでの授業を実施し、高校から大学、教養教育から専門教育への移行がスムーズに行えるよう配慮している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
課題・改善点は特になし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画の予定は特になし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**心理学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・１年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
単位の実質化を図るための措置として、年間履修登録単位数の上限（45単位）を設定している。また、3年次及び4年次への進級判定基準を設定し、公表している。適切な履修指導を行うため、各学期の授業開始前のガイダンスに加え、チューター制度を採用し、個別指導を行っている。また、3年次の「特殊演習」の選択に際しては、4年次の「卒業研究」において、学生自身の興味に従って主体的に研究を進めることが可能になるよう、希望するゼミの教員との面談を経て選択できるようなシステム作りを検討中である。シラバスについては、大学ホームページで公表している。各シラバスは、「授業概要」「到達目標」「学習のアドバイス」「ディプロマポリシーとの関連性」「標準的な到達レベルの目安」「理想的な到達レベルの目安」「成績評価の観点」「課題、評価のフィードバック」「授業計画表」「授業の進め方」「授業外学習の指示」「教科書」「参考書」「参考URL」「ルーブリック」の項目から構成され、教員はシラバスに従って授業を実施、評価を行っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
学生の主体的な学びを可能にするような、ゼミ選択制度を構築することが課題である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
「基礎演習」の授業の中で、ゼミ選択における留意点を周知徹底した上で、後期の期間中を教員との面談期間とする。その際には、教員との日程調整を学生が行うよう求める。ゼミ選択活動自体を、問題解決課題とすることにより、社会で役立つ知識の修得を促す。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**心理学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
各科目の成績評価の方法は、シラバスに「評価方法」として記載し、期末試験やレポートなど、複数の評価方法を用いる場合には、その評価割合（%）を明記している。講義科目については、各学期末に試験期間を設け、定期試験を実施、それに引き続き一定期間後に追試験、再試験を実施している。演習科目や実習科目については、授業時間内において評価を行っている。授業担当教員は学生の成績を100点満点とした点数で教務学生課に報告している。点数とそれに対応する評価（S～F）は「履修の手引」に記載し、学生に周知している。S～F にそれぞれ4～0の成績（GP）を与え、GPAを算出の上、学生には成績表で通知している。 卒業要件については、「履修の手引」に記載し、学生に周知している。最終的な卒業の判定に関しては、毎年2月に開催する「卒業判定会議」において、学則に基づき審議を行っている。以上のことから、成績評価、単位認定は適切に行われていると判断できる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
課題・改善点はとくになし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画は特になし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**心理学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
シラバスにおいて、各科目につき「ディプロマポリシーとの関連」「評価方法」を明示し、その学習成果を期末試験、再試験、レポートなどにより客観的に測定し、単位認定を行っている。また、演習および実習科目においては、ルーブリックを用いて、より客観性の高い評価を実施している。また、初年次教育科目「フレッシャーズセミナー１・２」において、「専門課程についての意識」「キャリア・目標設定」などに関するアンケート調査を複数回実施し、受講による意識・態度の変容について把握を試みている。各学期の学習成果については、GPA制度により取得単位の実質化を図るとともに、学生の自主的学習の促進を図っている。チューター制度を採用し、チューターとなった教員が学生一人一人に対し、成績表を配付する際に面談を実施し、学生の学習状況の把握を行っている。専門教育に進むにあたっては、前提となる知識の有無を判断し、その確実な習得を図るために進級判定を行うことになっている。進級判定の基準については、学則で定めるとともに、「履修の手引」で学生に周知を図っている。最終学年では、卒業研究を卒業要件とすることで、専門領域の学習成果を測定する。以上のことから、学位授与方針に示した学生の学習成果について、概ね適切に把握および評価していると判断できる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
課題・改善点はとくになし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画はとくになし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**心理学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ・点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
教養学部と合同でFD研修会を実施している。この研修会を通して、教育課程やその内容、方法などについて、学部スタッフ全員での共有化を図り、見直しを行っている。また学習成果については、学期ごとに授業改善アンケートを実施している。この調査を通して、学生の授業の理解度や関心度をはじめとして、授業内容や方法などに関する学生からの意見を集約するとともに、その結果を授業担当者にフィードバックしている。授業担当者は学生からのコメントを受けて、次年度以降の授業内容や方法を見直す貴重なデータとして役立てることが期待されている。さらに、教員による授業見学を実施している。他教員の授業内容や方法などの良い点を参考にし、自分の授業にも役立てるといったことが期待される。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
上記の通り、定期的な点検・評価、ならびにその結果の活用を行っている。なお今年度は、コロナ感染予防対策のため、前期のほとんどの科目において遠隔授業が実施された。後期に入り専門教育科目を中心に対面授業が再開されたものの、来年度以降も遠隔授業は部分的に継続されると予想される。遠隔授業は、授業担当者・学生ともに不慣れな授業形態となるため、教育効果の低下が危惧される。授業改善アンケートなどを通して、学生の理解度や受講態度などの評価、ならびに授業担当者の授業方法における課題などについて学部内で共有することで、教育効果の低下を防ぐ必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
上記のように、本年度はコロナ感染予防対策のため、遠隔授業が実施され、来年度以降も部分的継続が予想される。そこで、学部FD研修会において、今年度の遠隔授業を振り返り、うまくいったこと、いかなかったことなどについての情報を共有することで、次年度の取り組みに反映させていくことを計画している。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**教養学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
教養学部においては、４年以上在学し、必要な単位数を取得した者に、「学士（教養）」の学位を授与する。学部の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」は、下記のとおり、知識・技能・態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示する仕方で定められ、大学ホームページにおける教養学部の「教育研究上の目的及び３つのポリシー」を示すサイトと、『履修の手引』の「教養学部のカリキュラム」の章とにおいて公表されているため、学位授与方針は適切かつ有効に設定・公表されているといえる。 １．専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決しうる。 ２．専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用しうる。 ３．自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとりうる。 ４．広い視野と論理的･批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処しうる。 ５．社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示しうる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点での課題や改善点はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現時点での課題や改善点はないため、改善計画もなし。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**教養学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
(1)「専門教育科目」において専門性に裏づけられた基礎学力と幅広い教養を身につけるための教育システムとしてメジャー制を採用し、３つのメジャーおよび６つのサブメジャーの科目群を設置すること、(2)「キャリアデザイン科目」の科目群、２年次及び３年次のゼミ、4年次の卒業研究をそれぞれ設置すること、(3)２年次及び３年次のゼミをはじめ、アクティブラーニングによる課題解決型の授業を多く展開すること、そして、(4)上記科目群を順次、適切に履修させることで、学部の教育目標である、これからの地域社会を支える中核的人材、すなわち「地域基盤型職業人」の養成を行っていることを公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点での課題・改善点は特にない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
とくに改善の計画はない。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**教養学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
カリキュラムポリシーに基づき、「基本科目」「メジャー科目」「サブメジャー科目」の各科目群を体系的に編成している。各授業科目の具体的内容については、大学ホームページでシラバスを公表している。これらの教育課程の体系を示すものとして、カリキュラムツリーを公表している。また、履修の基本形態である１つのメジャーと１つのサブメジャーの組み合わせとして、15パターンの「履修モデル」を設定し公表している。その他、すべての科目について番号を付し、学習の段階や順序性を示している。また、4年間を通じて、少人数制クラスでの授業を実施し、高校から大学、教養教育から専門教育への移行がスムーズに行えるよう配慮している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
課題・改善点はない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画はない。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**教養学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・１年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
単位の実質化を図るための措置として、年間履修登録単位数の上限（45単位）を設定している。また、3年次及び4年次への進級判定基準を設定し、公表している。適切な履修指導を行うため、各学期の授業開始前のガイダンスに加え、チューター制度を採用し、個別指導を行っている。また、「基礎ゼミ」及び「専門ゼミ」の選択に際しては、学部全体での説明会を実施している。さらに、「専門ゼミ」に関しては、ゼミ紹介冊子を作成、配付するとともに、希望するゼミの教員3名以上との面談を課すことで適切かつ主体的な選択につなげている。シラバスについては、大学ホームページで公表している。各シラバスは、授業の内容と概要、到達目標、ディプロマポリシーとの関連、課題のフィードバック、評価方法、教科書、参考書、参考URL、備考、授業計画、の項目から構成され、教員はシラバスに従って授業を実施、評価を行っている。学生には「準備学習」の欄において、事前学習を促している。教職課程については、明星大学通信教育部との業務提携により、提携プログラムを利用することで、本学卒業時に小学校教諭一種免許状を取得できる。教員免許状取得希望者を対象に、学年の枠を越えた企画を実施し、教員採用試験対策をはじめ、教員になるための資質向上をめざしたプログラムを整備している。また、公務員を志望する学生に対しても、教員が授業時間外で個別に指導を行っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
単位取得について、単位の実質化を図るため、年間45単位の上限設定と各メジャーを俯瞰し個々の学生が自らの進路を意識した履修取得科目のデザインが可能となる。卒業時までの必要単位のガイダンスを徹底してきたが、今年度卒業予定学生数名の履修取得システムの無理解による履修への誤解があった。面談指導の徹底をしたとしても問題は発生する。さらなる工夫が必要である。シラバスについて学生には「準備学習」の欄において、事前学習を促している。しかし、その実効性についての検証は行われておらず、学生個々の主体性に任せられている傾向にある。教職課程については、明星大学通信教育部との業務提携により、提携プログラムを利用することで、本学卒業時に小学校教諭一種免許状を取得。教員免許状取得希望者を対象に、学年の枠を越えた企画を実施し、教員採用試験対策をはじめ、教員になるための資質向上をめざしたプログラムを整備しており、成果も出ている。また、公務員を志望する学生に対しても、教員が授業時間外に個別に指導を行い、成果を挙げつつある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画はとくにない。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**教養学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置としては、各授業科目のシラバスに、「標準的な到達レベル（合格レベル）の目安」「理想的な到達レベルの目安」および、「成績評価観点」と「評価方法」とからなる表（マトリックス）が示されていることを挙げうる。また「成績訂正」についていえば、「成績訂正報告書」には「成績訂正に至る経緯及び理由」と「成績訂正の未然防止対策」を訂正者が記載し、学部長の署名・捺印を必要とすることになっており、これも成績評価の客観性・厳格性を担保するための措置の一環とみなされうる。
・卒業要件は、『履修の手引』の「進級と卒業」「２．卒業判定について」で、「卒業要件単位数」の表とともに明示されている。
・学位論文（卒業論文）審査の基準については、授業科目としての「卒業研究」の各シラバスにおいて、「標準的な到達レベル（合格レベル）の目安」「理想的な到達レベルの目安」および、「成績評価観点」と「評価方法」とからなる表（マトリックス）が明示され、シラバスは大学ホームページ上で公開されている。全体的基準としては「卒業論文規定」を定め､これを（各ゼミに配付し）統一的な審査基準として明示している。厳格性を確保する措置としては、学部で義務化されている複数ゼミ合同ないし公開の卒業研究発表会（卒論報告会）および口頭試問（任意）の実施を挙げうる。
・学位授与に係る責任体制としては、カリキュラム委員会が中心となって「卒業論文規定」を定め、また「卒業論文の提出に関する規定」をも定めて、これを遵守するよう、各ゼミ教員を通して学生に指導している。最終的には、教授会で行われる「卒業判定会議」が、学位授与に係る責任体制をなしている。
・全学内部質保証推進組織等の関わりについては、カリキュラム委員会を通じて、全学の教務委員会が関わっている。特に、上記「成績評価の客観性、厳格性」や『履修の手引』に関しては、教務委員会の責任・主導のもとで必要な措置がとられている。
・当該の「評価の視点」のすべてに関して、取り組みの有効性・適切性は確保されているとみなされうる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

学部の自己点検評価委員会（間接的には全学の自己評価委員会）が内部質保証推進組織として成績評価、単位認定及び学位授与の自己点検・評価にどのように関わるのが望ましいか、検討すべきである。これを課題と判断する根拠は、同じく内部質保証推進組織としてのカリキュラム委員会やＦＤ委員会に対する自己点検評価委員会自体による恒常的な点検・評価、および（必要であれば、規約にあるとおり）同委員会への建議を行うことが望ましいと思われるという点にある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

自己点検評価委員会（会議）において定期的に、カリキュラム委員会およびＦＤ委員会の重要な施策・方針・案に対する点検・評価を行い、建議のある場合は、その旨を運営委員会に報告する、という体制について、次年度以降検討する。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**教養学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標は、期末試験、再試験、レポート等において、また、教育課程レベルではGPA、科目レベルでは授業改善アンケートにおいて、適切に設定されている。 ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発としては、シラバスにルーブリックを明示し、これを活用した測定を行っていること、学修行動調査を実施していることが挙げられる。 ・GPAを進級判定、卒業判定に採り入れるか否かについて検討されたが、募集停止となっている教養学部においては妥当な措置ではないとの検討結果を得た。 ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わりについては、学部における上記のすべての設定・開発・検討が、全学の教務委員会およびFD･SD委員会の主導（学部のカリキュラム委員およびFD委員会への要請）によって行われていることを挙げうる。 ・以上それぞれの取り組みは，改善の余地を含みはするが、有効かつ適切なものと認められる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
・測定の指標に関しては、シラバスにおけるルーブリックの明示は、演習･実習科目以外では任意となっており、科目によるばらつきが生じているため、学部におけるすべての授業科目のシラバスにルーブリックを盛り込むことが検討課題である。 ・教養学部が統括する全学共通教育科目「英語」において、年度末に全学共通で行うテスト（今年度は新型コロナウイルス関連の事情等で不実施）は次年度のためのプレイスメント・テストという趣旨で行われており、アセスメント・テストとしては実施されていない。アセスメント・テストの実施・活用が検討課題である。 ・学修行動調査についていうと、その本来の目的である「教育活動の見直し」に調査結果を活用することが課題であり、改善点である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
・学部の全科目においてルーブリックを何らかの仕方で可能なかぎり明示することの必要性・意義等について、次年度検討する。 ・教養学部が統括する全学共通教育科目「英語」におけるアセスメント・テストの実施・活用について、次年度検討する。 ・学習行動調査の結果を「教育活動の見直し」に活用する具体的方策について、あるいは、そうした活用をＦＤ研修会のテーマとすることについて、次年度検討する。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**教養学部**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ・点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
通常、年に1回、教養学部FD研修会を開催し、教育課程やその内容などについて学部スタッフ全員での共有化を図り、見直しを行っている。学習成果については、学期ごとに授業改善アンケートを実施しており、学生の授業の理解度や関心度をはじめとして、授業方法などについて、授業を受けた学生からの意見を集約し、授業担当者が授業内容、方法等を見直す機会としている。その結果は授業担当者にフィードバックされ、授業担当者が学生からのコメントを受けて、授業内容や方法を見直す貴重なデータとして役立てることが期待されている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
授業改善アンケートをもとに、各授業担当者が授業の見直しを継続することが求められる。ただし、今年度については、新型コロナウィルス感染拡大に伴い、新たに遠隔授業の実施が求められたところであり、そのためのFD研修会を心理学部と合同で3回実施した（第1回・2020年4月14日、第2回・2021年3月4日、第3回・2021年3月17日）。学部内FD委員会による企画のもと、第1回及び第3回については、学部教員が講師となり、本学が採用したMicrosoft Teamsでの授業実施方法、遠隔授業のための機材の使用方法等について、研修を行った。また、第2回は、Teamsを用いた遠隔授業での失敗例や成功例についてグループワークを通じて、教員間で経験の共有を図った。毎回、教養学部・心理学部の所属教員すべてが参加するとともに、参加後に求められるレポートについても、学内のみであるが、ウェブ上で公開し、授業方法の改善に活用することを求めた。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
定期的に点検・評価を行う一方、教員による授業見学を実施している。その際に書き留められたフィードバック・シートを参考資料として、学部FD研修を実施することも計画されている。本学部は2019年度に募集停止となり、次年度は学部生の多くが4年生での在籍となるが、3年生以下にも数名の学生が在籍することから、個々の学生の学修ニーズに合わせて、既存の教育課程の内容及び方法についても検討していく予定である。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**生命理工学研究科**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
専攻ごとに「ディプロマポリシー」および具体的な「学位論文合格判定基準」を定め、新入生ガイダンス時に周知すると共に、大学HPに掲載している。また、「学位論文合格判定基準」は、修士課程、博士後期課程ともに、具体的な指針を示した6項目からなり、有効かつ適切に運用されている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
課題・改善点としては、本学の大学院生に社会人大学院生が多いことに対する課題、改善点が考えられる。具体的には、多様な経歴・教育歴をもつ社会人入学生の相互交流が大学院生の視野の拡大に繋がる一方で、研究や学習に割ける時間が業務時間外に限定されており、研究教育指導を行う際の障害ともなっている可能性がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
メールや遠隔面談を通して、大学院生の時間を有効に活用する必要がある。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**生命理工学研究科**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
各専攻ごとに｢カリキュラムポリシー｣を定め、大学HPに公表している。また、「履修の手引き」についてもHPで公開し、合わせて各年度のガイダンス時に履修指導を行っている。開講科目のシラバスには、科目の位置づけと目的、到達目標、授業計画、成績評価の方法について明記している。 教育課程は社会人大学院生にも対応したものであり、選択科目は集中講義として主催されるものが多く設定されている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
教育課程は社会人大学院生にも十分に対応すべく設定されているが、点検・評価項目①でも挙げたように大学院生の学習・研究機会をいかに向上させるかが今後の課題である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
将来的には、授業形態として遠隔授業の全面的な導入を検討している。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**生命理工学研究科**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
生命理工学専攻（修士課程）の「物質理学コース」では生命科学や創薬について、また、「物理工学コース」では人間工学から健康科学・リハビリテーションについて探求し、高い専門知識と技術・研究能力を修得できるカリキュラム編成としている。生命理工学専攻（博士後期課程）では、最先端の薬学・健康・医療科学について探求し、高度な理論と科学技術を創造的に展開できる能力を修得できるカリキュラム編成としている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特に無し。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特に無し。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**生命理工学研究科**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・１年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
新入生オリエンテーション時に履修登録ガイドを配付し、教育課程および科目履修方法の指導と支援を行うと同時に、「学位取得までの流れ」として学位取得までのロードマップを示し、大学院生としての自覚を促している。また、研究指導は、学生の研究課題に沿った研究指導教員を置き、指導体制を整えており、年度ごとに提出される「研究計画書」および「研究報告書」に基づいて進捗状況を把握し、研究指導内容の透明化を図りつつ教育の質保証に努めている。さらに、学会発表(参加登録、旅費)や論文投稿料に対する補助制度を設け、研究の活性化を支援している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
COVID-19の流行下で、教育現場における遠隔授業の重要性は日増しに高まっている。改善すべき課題として、大学院教育における遠隔授業をより一層充実させる必要がある。 同様に、生命科学領域では研究施設内での実験の実施、人間科学領域では被験者との対面によるデータ収集が必須であるが、COVID-19の流行拡大の抑止を考えるとどうしても研究活動を制限せざるを得ない面がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現行のカリキュラムを柔軟に運用しつつも将来的には遠隔授業を念頭に置いた、より実情に即したカリキュラムを再構築する必要がある。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**生命理工学研究科**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
修了要件については「履修の手引き」で明示しており、履修科目の成績評価(単位認定)については各科目のシラバスに科目の位置づけと目的、到達目標、授業計画、成績評価の方法について明記し、評価を客観的かつ厳格に行っている。学位論文審査については、各課程における学位論文合格判定基準をホームページ上で明示・公表し、審査を実施している。審査の客観性・厳格性を担保するために学外有識者を審査員に含めた審査会による審査体制を定めている。学位審査にあたっては、最初に予備審査として論文審査を実施し、これに合格した上で最終審査(公開発表)を行うという審査体制を定めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特に無し。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特に無し。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**生命理工学研究科**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
年度ごとに提出された「研究計画書」および「研究報告書」に基づいて研究成果を把握し、評価を実施している。学位授与の指標として、修士論文の作成については学会での成果発表を課している。博士論文の作成については査読付きの学術誌への掲載を求めることで一定以上の学習成果を保証している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特に無し。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特に無し。

提出日	2021年4月30日	学部・研究科	**生命理工学研究科**

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ・点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
大学院FDの実施と専攻主任会、研究科委員会等での検討を定期的に実施している。また、研究科に自己点検委員会を置き、年間を通じて自己点検・評価を行っている。さらに、全てのシラバスの更新を毎年実施することで教育課程の内容、方法を確認している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
大学院FDの結果等を踏まえたPDCAサイクルの確立を通じて問題点を抽出し、改善に努めている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特に無し。

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
人文学研究科臨床心理学専攻の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」を定め、大学ホームページの「教育方針」を示すサイトにおいて公表している。また、大学院生に配布している「履修の手引き」の中でも、人文学研究科、ならびに臨床心理学専攻の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」を明示しており、この点については適切に実施されていると考える。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
人文学研究科臨床心理学専攻においては、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、大学ホームページの「教育方針」を示すサイトにおいて公表している。また、大学院生に配布している「履修の手引き」の中でも、人文学研究科、ならびに臨床心理学専攻の「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」を明示し、大学院生に周知している。また、この方針は、学位授与方針（DP）で示した能力を身につけることにつながり、DPとの整合性はとれている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
臨床心理における専門職業人の育成を目指す臨床心理学専攻では、1年次に心理臨床実践に関連する心理学分野の講義科目を配置し、実践に役立つ知識を身につけられるようにしている。講義科目では、大学院生相互また、教員とのディスカッション形式をとることが多く、アクティブな学習活動を行う工夫がされている。講義科目と並行して演習・実習科目では、それらの知識を実践に応用する能力を育むため、体験を通した学習を進めている。1年次後半からは、学内実習機関である心理相談センターで実際の相談者を担当し、教員からスーパーヴィジョンを受けながら実習を行い、より実践的な学びができるようになっている。2年次では、心理相談センターでの実習と修士論文作成のための研究活動が中心となり、それらは、「臨床心理実習」「心理実践実習」「臨床心理学特殊研究」の科目を通して行われる。研究能力と実践能力の両方を身につけられるような科目構成になっている。以上から、CPに基づき、体系的に教育課程が編成されていると判断する。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・１年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
シラバスに、授業概要のほかに、到達目標を明示し、学習へのアドバイスでは、目標に到達するための学び方についての助言を提供している。また、それぞれの科目がディプロマポリシーとどのように関連しているかについて示し、各科目の位置づけを明確にしている。また、成績評価の方法と基準についても明示し、それらはホームページで公開し、大学院生に周知している。臨床心理学専攻の履修生は少人数であるため、講義科目においては、学生の発言機会は十分に得られ、より深く、多面的に思考する働きかけが行われている。また、演習・実習科目においては、少人数であることから、個々の学生の進行状況を把握しやすく、きめ細かい指導がしやすいことは強みである。また、メンター制を取り、大学院生一人一人に教員がメンターとしてつき、面談を通して学修の進捗状況を把握し、アドバイスを行い、充実した学修活動をサポートしている。入学から修了までの指導計画を作成し、履修の手引きに掲載して大学院生に周知している。学習効果の向上を目指して、よりアクティブで実践的な学習を目指し、オンライン学習支援システムを活用して授業資料や課題を提示し、システムを通して課題の提出を求めるなど、リアルタイムで課題についてコメントを返すことで、学習の定着を確実にする試みを始めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
大学院人文学研究科臨床心理学専攻の修了要件、学位審査基準については、入学時に渡す「履修の手引き」に明確に記載しているものを基準として行っている。成績評価については、あらかじめシラバスに「到達目標」「ディプロマポリシーとの関連」「到達レベルの目安（標準的と理想的の２種）」「評価観点」や「ルーブリック」なども提示しており、客観的な観点で評価・単位認定ができるように方法を整えている。また、学位取得のための研究指導についても「履修の手引き」に示されている。具体的には、1年次に研究課題を提出し、指導教員を決定して取り組みを始め、2年次になると主たる指導教員の他に副指導教員2名が加わり３名体制で研究指導を行う。「構想発表会」「中間発表会」では指導担当以外の教員からも指導を受けながら進行する。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
新しくできた公認心理師資格のために、在学中の実習時間が増えたこと、試験の時期が早まってきているため、在学中に資格試験のための受験準備をしなければならないことなどから、修士論文の研究に十分に時間をかける余裕がなくなってきていることが懸念される。学位審査基準に従って質保証を担保するためには、従来の研究指導計画を見直し、よりスムーズで充実した指導体制の構築が課題である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
1年次の研究課題を早期に確定させて研究を始めるためには、入試時に提出を求めている研究計画書の位置づけを見直す必要がある。そのため、入試で提出を求める出願書類から見直しを行い、修了まで一貫性のある指導システムを検討していく計画である。

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
各授業科目については、シラバスの中でディプロマポリシーとの関連を明示しており、それに沿って評価がなされている。実習科目では、心理の専門家として実践活動を行う能力を身につけることを念頭に置き、到達目標のなかで、心理実務家として必要な能力を明示し、授業のレポートや個別スーパーヴィジョンの際のレポートを基にその習得状況を把握し、評価している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
知識やスキルについては、レポートや実習で成果を確認しているが、臨床の場で働く心理職として必要な態度については測定する指標が明確に示されてはいない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
心理の実務家として身につけるべき態度、技能、知識について、具体的に大学院生に提示し、客観的な指標を用いて評価できるよう、観点の整理を始めている。また、学生の学習成果の把握のためには、実習先や就職先と連絡をとり、状況を把握し、心理の実務家として身につけるべき能力を在学中に確実に身につけられることを目指す。

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科

2020年度　大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準４　教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ・点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
新しくできた国家資格の公認心理師受験資格取得に対応するため、2020年度にカリキュラム改訂を行った。その際、心理実践の基礎となる科目を新設した。また、修了後に実施される臨床心理士と公認心理師の受験結果を把握すべく、修了時に修了生に対して受験結果の報告を依頼している。また、修了時に本専攻における学修についてのアンケートを実施し、本専攻における学修の満足度やさらに希望する点について把握している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
大学院の授業については授業改善アンケートが実施されておらず、その点で、適切な根拠に基づく教育課程の定期的な点検・評価は実施されているとは言い難い。修了生から臨床心理士、公認心理師の受験結果の報告を求めているが、それに基づいてカリキュラムの内容や教育方法の見直しを行っておらず、その点で、学習成果の測定結果を適切に活用しているとは言い難い。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
教育課程の内容、方法について定期的に点検し、その結果をもとに改善に向けた取り組みについて検討する。

令和3年5月17日

全学教育委員会委員長　様

自己評価委員会
委員長　松本　司

2020年度自己点検・評価報告書及び改善課題について

2020年度の自己点検・評価報告書につきまして、「自己点検・評価に関する規程」第6条に基づき、別添のとおりご報告いたします。また、各部局の自己点検・評価結果を確認した結果、以下のとおり改善課題として認識いたしました。

医療創生大学内部質保証体制に基づき、全学教育委員会委員長及び自己評価委員会委員長の連名による改善への取組みを関係部局へ依頼したく、ご検討のほどお願いいたします。

■薬学部【改善課題及び改善指示】
留年率が一昨年の10.0%から9.6%へ改善しているものの、年度目標には達していないため、目標数値を過去の状況を分析したうえで適切に設定し、具体的な改善の取組みを行い、月次の進捗報告を行ってください。

■看護学部【改善課題及び改善指示】
看護師国家試験合格率は、新卒では例年95%前後で推移している中、本学では年度目標100%に対し、88.8%の結果となっています。合格に至らなかった学生の要因を分析し、目標合格率達成のための具体的な改善の取組みを行い、月次の進捗報告を行ってください。

■健康医療科学部【改善課題及び改善指示】
OTの入学定員充足率が55.0%と低いため、要因の分析や、他大学の好事例の参照など、定員充足のための方策を検討・実施し、月次の進捗報告を行ってください。またPTは定員超過となっているため、適切な定員管理を行ってください。

■心理学部【改善課題及び改善指示】
入学定員充足率が58.3%と低いため、要因の分析や、他大学の好事例の参照など、定員充足のための方策を検討・実施し、月次の進捗報告を行ってください。

■教養学部【改善課題及び改善指示】
募集停止後、2021年度の4年生で最終年度となるため、留年生を含め、留年率の減少、就職率100%を目標に、学生支援の充実に務めてください。

■生命理工学研究科【改善課題及び改善指示】
大学基準協会から示されている改善課題「学習成果の把握及び評価が行われていないため、効果的に測定するとともに結果を教育内容・方法に生かすこと」を着実に実施し、チェックリストの指標に加え、月次の進捗報告を行ってください。

■人文学研究科【改善課題及び改善指示】
大学基準協会から示されている改善課題「学習成果の把握及び評価が行われていないため、効果的に測定するとともに結果を教育内容・方法に生かすこと」を着実に実施し、チェックリストの指標に加え、月次の進捗報告を行ってください。